

1. 概要

Facit N1081 NetWork Satellite は、小型LCDとファンクションキーを表面に配し、ハードディスクを内蔵した、LAN (Local Area Network) 対応の新しいタイプのネットワーク専用DNCターミナルです。

ホストコンピュータとの通信は、一般的なFTP (File Transport Protocol) を使用しているため、いろいろなコンピュータとのネットワーク通信が可能です。

Facit N1081 NetWork Satellite (以下、「本装置」と記述します) は、本体にハードディスクを内蔵し、ホストコンピュータからデータを一旦自身のハードディスクに取り込み、DNCを行うという「Store & Forward方法」を採用しています。

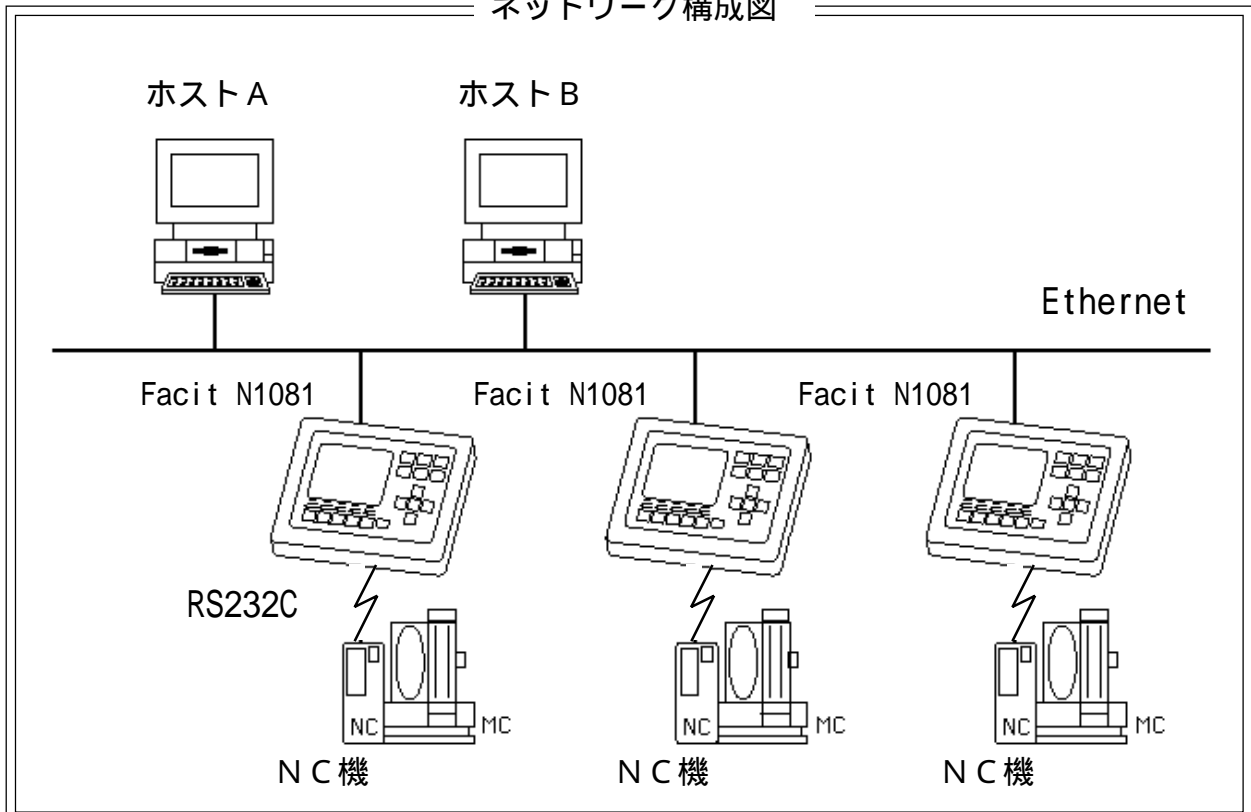
このため、ホストコンピュータから一旦本装置にデータを取り込んでしまえば、ホストコンピュータの状態とは無関係に、DNC処理を行うことができます。

本装置とNCコントローラとはRS232Cインターフェースで接続され、NCコントローラとの通信プロトコルは、プロトコルA及びプロトコルBがサポートされています。

ファイルに登録したスケジュール通りに、NCプログラムファイルのデータを送信する機能(グループファイル機能)や、サブプログラム機能(M98Pと任意コード)にも対応しています。

プロトコルBでは、NCコントローラからNCデータを受信する事も可能です。この場合も、受信したデータを内蔵ハードディスクに取り込みます。ハードディスクに取り込んだデータをLAN経由で、ホストコンピュータへアップロードする事が可能です。

ネットワーク構成図

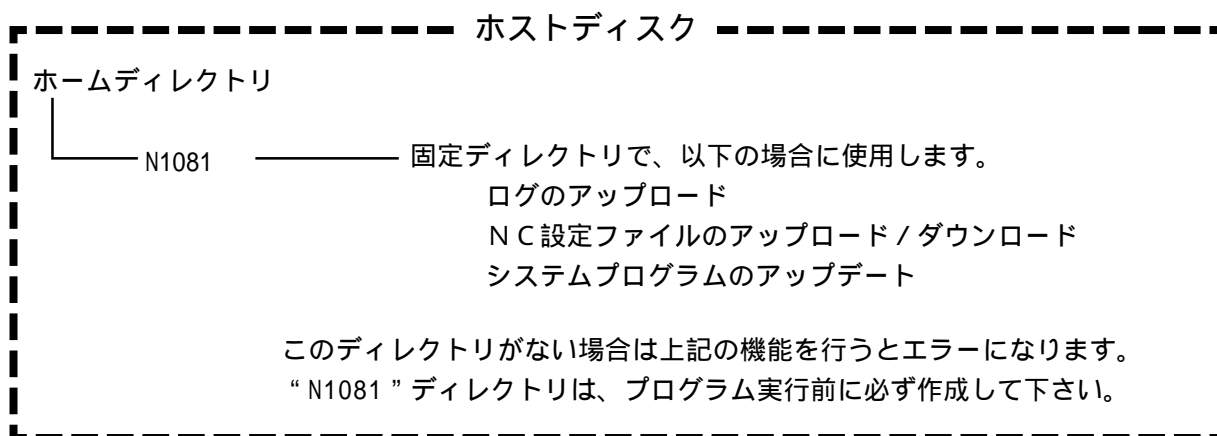
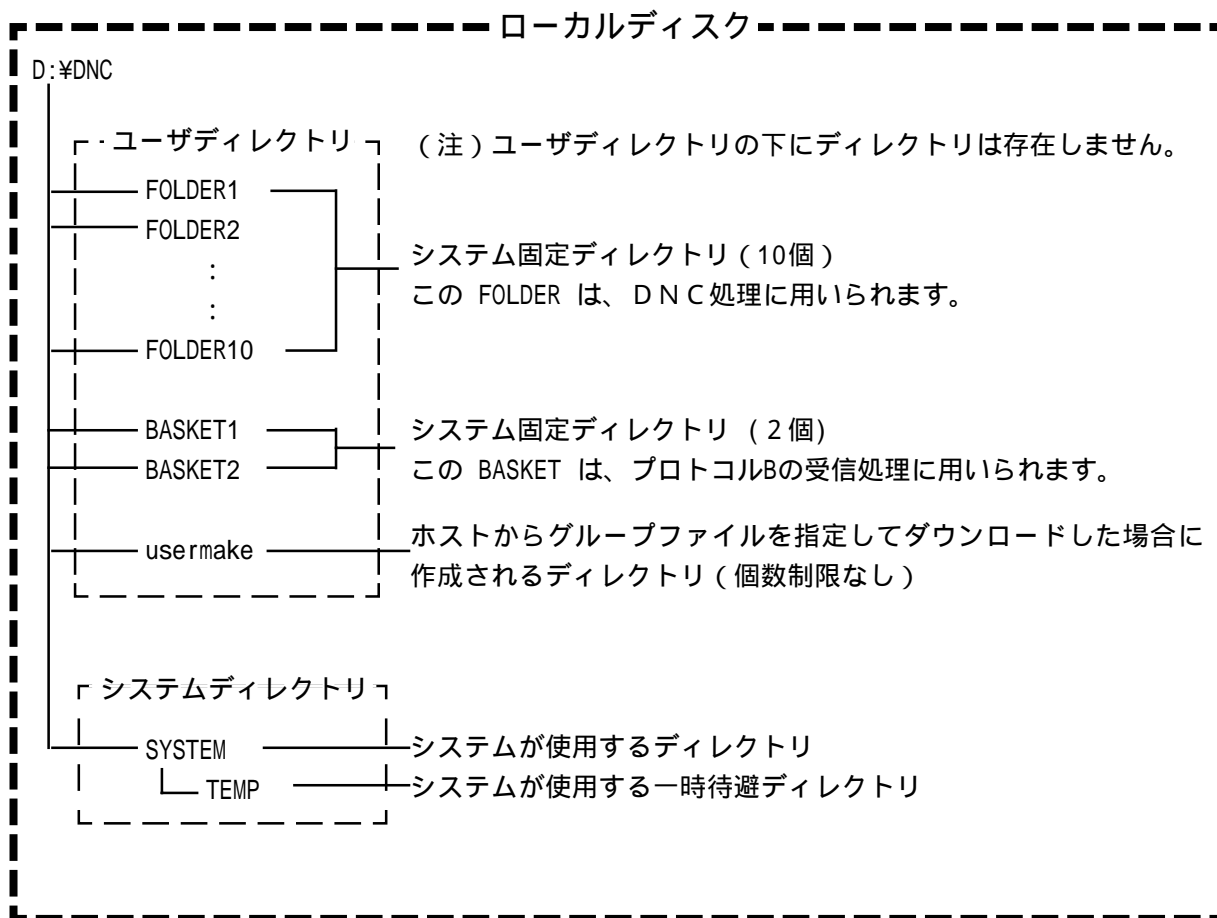


2 . ハードウェア構成

CPU	AMD ElanSC400 動作クロック33MHz
DRAMメモリ	32ビット 72pin DIMM 4MB
Flashメモリ	BIOS格納用・・・512KB
FlashDisk	アプリケーション格納用・・・2MB
RS232C	1チャンネル(25ピン メス)9番ピンに +5V 0.3A
Ethernet I/F	10BASE-T 及び AUIの自動切り替え AUI 12V 0.5A
HDD	2.5インチEIDEタイプ 1GB ~ 2GB
操作キー	上下左右の矢印キー 5つのファンクションキー シフトキー 6つの起動キー
LCD	320×240 FSTNモノクローム CCFLバックライト付き
OS	MS-DOS 6.2V
BIOS	PHOENIX社製
電源	AC 90 ~ 240V 50/60Hz自動切り替え
動作時周囲温度	5 ~ 40
重量	約2.5Kg
外形寸法	縦幅 182mm 横幅 257mm 奥行 60mm (足のマグネットは含まない)

3 . ディレクトリ構成

本装置のディレクトリ構成は以下の通りです。



4 . ファイル構成

(1) 実行ファイル

X81G.EXE

(2) システム定義ファイル (X81G.EXE と同じディレクトリ下)

X81GSYS.INI システム環境を定義します。

ディレクトリ名

システムで使用するファイル名

ファイル拡張子 等

(3) 画面用データファイル (システムディレクトリ下)

X81GMSG.DAT 画面表示メッセージ用のデータファイル

(ファイル名は X81GSYS.INI に定義されています。)

(4) N C 設定ファイル (システムディレクトリ下)

XNCPARA.PRM N C 通信方法の設定ファイル (現行の設定値を常に保存)

xxxxxxx.PRM ... N C 毎の個別の通信方法の設定ファイル (更新されない)

最大 5 個

(5) ログファイル (システムディレクトリ下)

yyyymmdd.LOG ... 過去 7 日分のログファイルが存在します。

(6) N C ファイル (ユーザディレクトリ下の BASKET1,2 以外)

ホストからダウンロードしてきた N C ファイル

アプリケーション上でのファイル表示は、ホスト側のファイル名です。

(本装置上での実際のファイル名は (8 桁の数字).DAT で作成され、変換テーブルでホスト側のファイル名との整合を行っています。ファイル表示は、ホスト側のファイル名で表示されます。)

(7) N C グループファイル

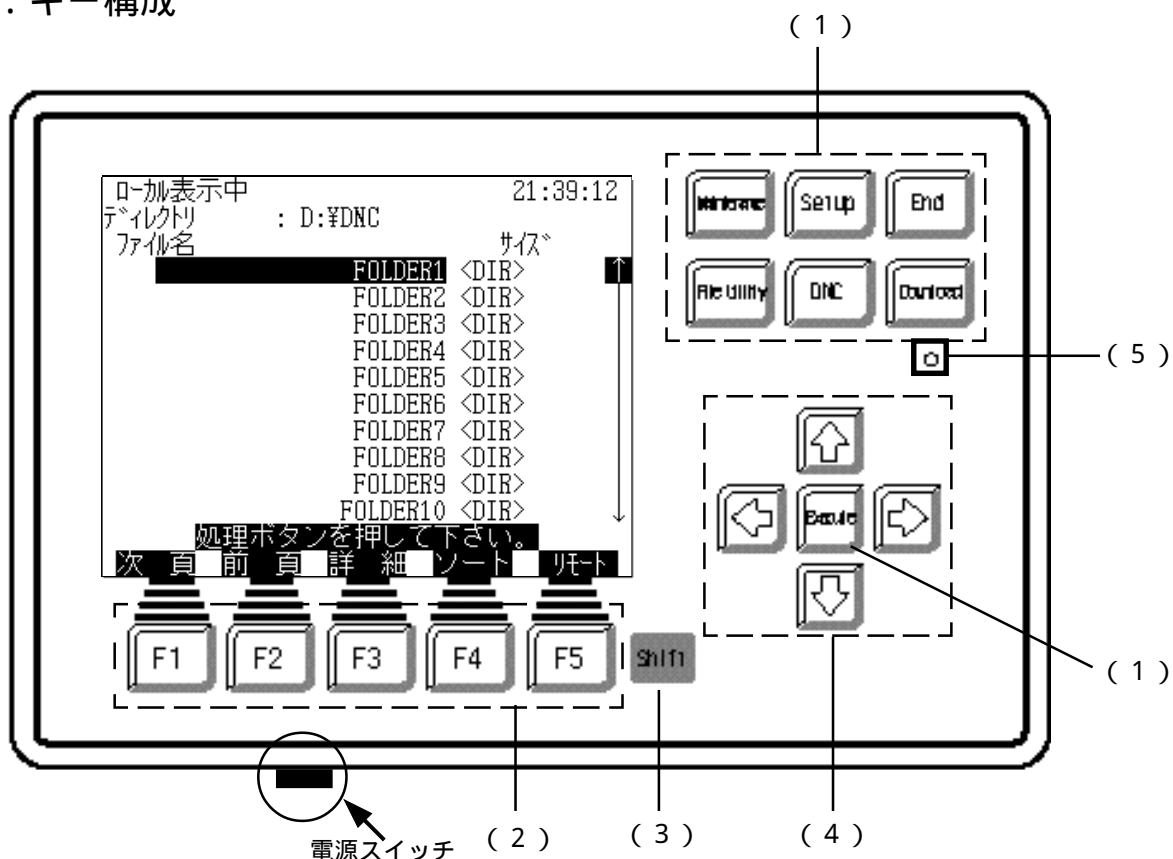
DEFAULT.GRP ホスト側から N C ファイルをダウンロードした際に自動生成します。

xxxxxxx.GRP ... グループファイルの編集機能により作成します。

(8) N C ファイル (ユーザディレクトリ下の BASKET1,2)

N C コントローラから受信した、N C データファイル

5. キー構成



電源スイッチ

本装置の起動および停止は、本体手前側の「電源スイッチ」によって行います。

(1) 単独キー

- Maintenance : メンテナンス画面へ移行します。
- Setup : 初期設定画面へ移行します。
- End : 処理を終了し、前画面へ戻ります。
- File Utility : ファイルユーティリティ画面に移行します。
- DNC : 選択されているファイルで、DNCの実行を開始します。
- Download : ファイルのダウンロード画面に移行します。
- Execute : 選択の確定 / 取り消しを行います。

(2) ファンクションキー

- F1 ~ F5までを使用します。
- ファンクションキーの各機能は、画面最下段に表示します。

(3) Shiftキー

- Shiftキーにより、ファンクションキーを切り替えます。

(4) 矢印キー

- 、 、 、 の4個のキーにより選択範囲の移動を行います。

(5) HDDアクセスランプ

ハードディスクへアクセスしている時、ランプが点灯します。

ランプが点灯、もしくは点滅している時は、ハードディスクが動作中です。
ハードディスク動作中に電源を落とすと、ディスクを破壊するおそれがあります。
ハードディスク動作中には、絶対に本装置の電源を落とさないで下さい。

複数キーの同時押し操作は行いません。

6 . 機能と操作方法

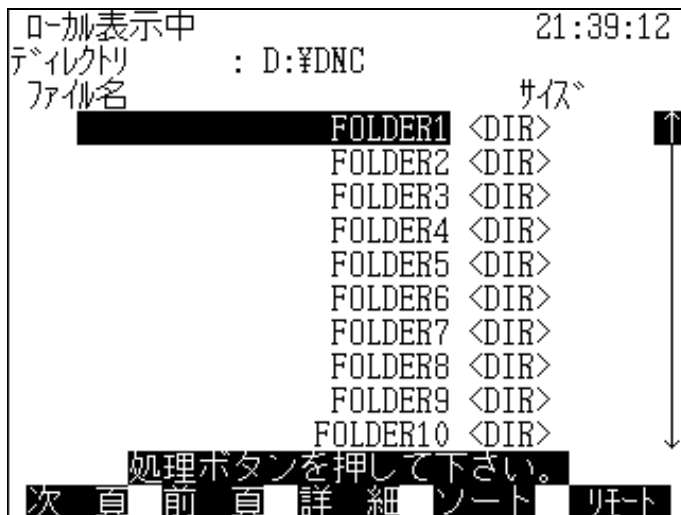
6 - 1 . トップメニュー

本装置を起動すると、カンパニーロゴ画面が表示されます。

その段階で、どれかのキーを押すと、下記のようなトップメニュー画面が表示されます。

[Shift] キーを押すと、ファンクションキー (F 1 ~ F 5) の機能切り替えが行えます。

< トップメニュー画面 >



[Shift]

NC 通信方法設定で、
プロトコルBが設定されて
いる場合。



-- 又は --

NC 通信方法設定で、
プロトコルAが設定されて
いる場合。



(1) ディレクトリ内のファイル名及びディレクトリ名の表示

表示ディレクトリ内のファイル及びディレクトリを表示し、カーソル位置は反転表示されます。

矢印キーでディレクトリを選択し、[Execute] キーを押すことにより、表示ディレクトリの移動を行います。

ただし、ローカル表示 () の場合、D:¥DNC より上のディレクトリには移動できません。リモート表示中は、制限はありません。

表示ディレクトリ — [ローカル表示中] ディレクトリ : D:¥DNC\FOLDER1

ファイル名 サイズ

	<DIR>	
	1-1.NCD	892
	1-2.NCD	892
	2-1.NCD	892
	2-2.NCD	892
	3-1.NCD	892
	3-2.NCD	892
	1.GRP	27
	2.GRP	27
	3.GRP	16

処理ボタンを押して下さい。

次 頁 前 頁 詳 細 ソート リト

表示ディレクトリ内のファイル及びディレクトリ

ディレクトリの場合、後ろに<DIR>が表示される

[Execute]

[ローカル表示中] 15:05:32

ディレクトリ : D:¥DNC

ファイル名 サイズ

	FOLDER1	<DIR>
	FOLDER2	<DIR>
	FOLDER3	<DIR>
	FOLDER4	<DIR>
	FOLDER5	<DIR>
	FOLDER6	<DIR>
	FOLDER7	<DIR>
	FOLDER8	<DIR>
	FOLDER9	<DIR>
	FOLDER10	<DIR>

処理ボタンを押して下さい。

次 頁 前 頁 詳 細 ソート リト

() ローカル表示

表示形式には「ローカル表示」と「リモート表示」があります。切り替えの方法等の詳細は「(5) リモート/ローカルの表示切り替え」をご覧ください。

(2) 表示領域のスクロール

次頁 **前頁** にて改ページを行います。

[] [] キーにて1行毎のスクロールを行います。

(3) ファイルの詳細表示

詳細 を押すとファイル詳細画面に移行され、選択されたファイルの詳細情報を表示します。

ディレクトリ選択時は無視されます。

ローカル表示中でもリモート表示中でも有効です。

リモート表示中に詳細表示を行うと、対象ファイルをホストから本装置のテンポラリディレクトリへ仮にダウンロードしてから表示します。この影響で、同じファイルを詳細表示しても、リモートモードではローカルモードより時間がかかります。

詳細表示画面から戻ると、本装置のテンポラリディレクトリへ仮にダウンロードされた対象ファイルは、自動的に削除されます。

< ファイル詳細画面 >

The screenshot shows a terminal window titled "ファイルの詳細データ表示 13:08:04". It displays the following information:

- ディレクトリ名 : D:\DNC\FOLDER1
- ファイル名 : BT-T1.NCD
- サイズ : 106972 Byte
- 更新日付 : 1998/ 4/20 15:11:38

Below this is a section for "データ" (Data) with a scrollable list:

- 1: %
- 2: (F BOTTOM-DATA)
- 3: (F CLFILE=BT-T1.CLF)
- 4: (F DATE=MON OCT 20 11:51:2
- 5: (F PROC=ROUGH)
- 6: (F DIAM=6.0000,RADI=3.0000
- 7: (F TOOL=)

At the bottom, there are navigation buttons: **次頁** **前頁** **先頭** **末尾** **戻る**.

Annotations on the right side of the screenshot explain the fields:

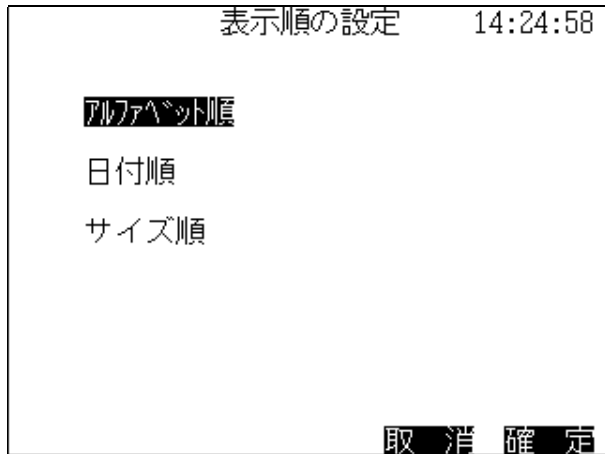
- 選択ファイルあるのディレクトリ名 (Directory name of the selected file)
- 選択ファイル名 (Selected file name)
- 選択ファイルのサイズ (Size of the selected file)
- 選択ファイルの更新日付 (Update date of the selected file)
- 選択ファイルの抜粋データ (Selected file's excerpt data)
 - ・ ファイルの先頭 100 行と末尾 100 行を表示 (Display the first 100 lines and the last 100 lines of the file)
 - ・ 1 行のデータのうち先頭から 26 桁までを表示 (Display up to 26 characters from the start of each line of data)
 - ・ 表示域にはスクロール機能あり (Scrolling function is available in the display area)

(4) 表示順序の変更

ソート を押すと表示順序変更画面になり表示順序が変更できます。(既定の表示順はディスク中の配置順です。)

ただし、表示ディレクトリを変更した際は、表示順はリセットされます。

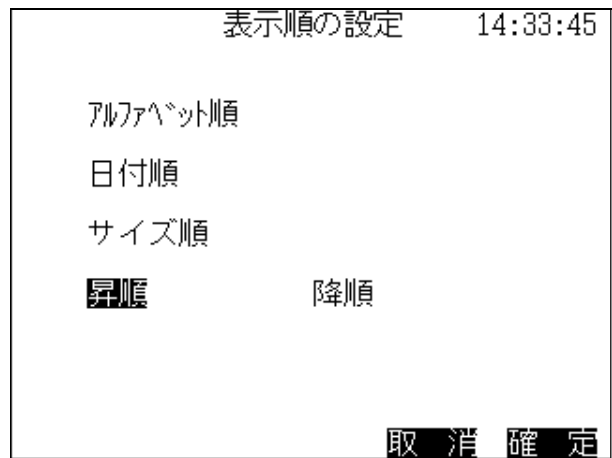
< 表示順序変更画面 >



ソート順を「アルファベット順」「日付順」「サイズ順」のいずれにするかを選択。

ソート方向を「昇順」にするか「降順」するかを選択。

ソートを行わずにトップメニュー画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。



ソートを行わずにトップメニュー画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

選択した“ソート順”
“ソート方向”でソート
を行いトップメニュー
画面に戻る。

< ソート方向が「昇順」の場合 > (「降順」の場合は逆)

アルファベット順	数字	大文字	小文字
日付順	日付の新しい順		
サイズ順	ファイルサイズの小さい順		

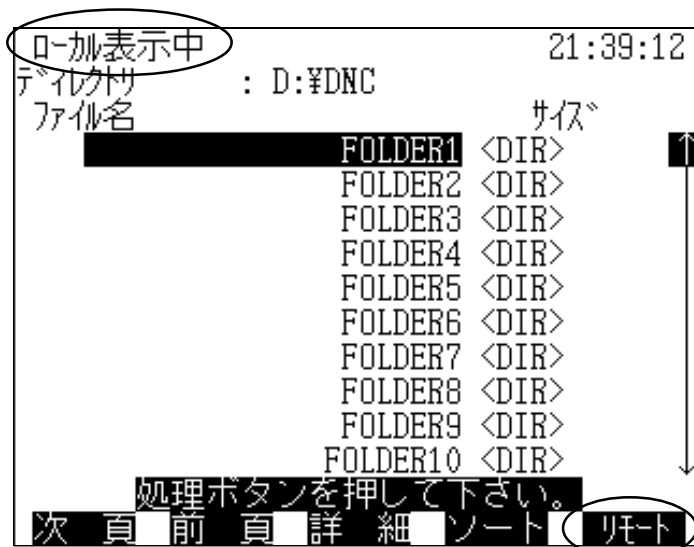
(5) リモート/ローカルの表示切り替え

リモート **ローカル** を押すことによりトグルの切り替えを行います。

ローカル表示の場合は、左上に **ローカル表示中** と表示されます。また、右下は **リモート** となります。

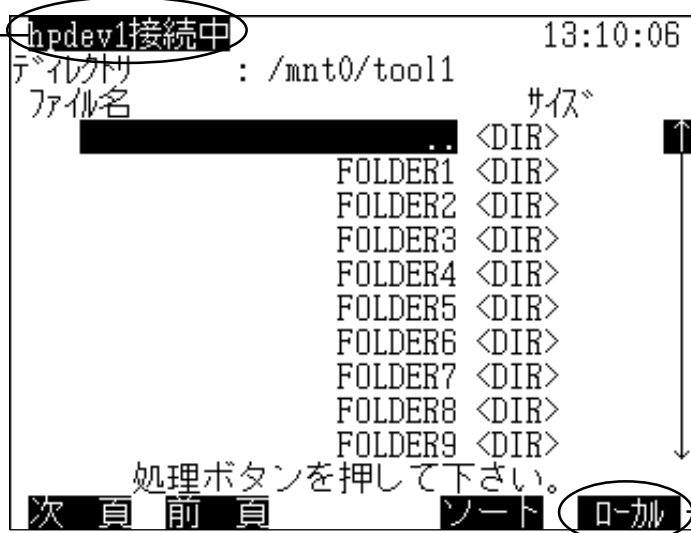
リモート表示の場合は、左上に **ホスト名'接続中** と表示されます。'ホスト名'は、現在接続しているホスト名です。接続するホストを変更したいときは、「6-2.初期設定(3)ホスト接続選択」(P30)で変更して下さい。また、右下は **ローカル** となります。

<ローカル表示の場合>



<リモート表示の場合>

現在接続しているホ
ストは 'hpdev1'



(6) ディスク状況表示

状況 を押すとディスク状況画面になり、本装置（ローカル側）のハードディスクの状況を表示します。

表示内容は

- ・全ディスク容量 (表示単位は、Kbyte・キロバイト)
- ・使用ディスク容量 (表示単位は、Kbyte・キロバイト)
- ・空ディスク容量 (表示単位は、Kbyte・キロバイト)
- ・搭載されているメモリ容量 (表示単位は、MB・メガバイト)

です。

< ディスク状況画面 >

ディスク状況		15:46:41
全ディスク容量	:	1902816 Kbyte
使用ディスク容量	:	505344 Kbyte
空ディスク容量	:	1397472 Kbyte
搭載メモリ容量	:	4 MB以上

戻る

(7) 検索

検索 を押すと、検索文字設定画面へ移行します。

デフォルトでは、全てのディレクトリやファイルを表示する為に *.* となっています。この検索文字を任意に設定する事によって、表示するディレクトリやファイルを制限する事が可能です。

この検索文字設定は、ディレクトリを移動するとデフォルト設定にリセットされます。

例えば、最初の文字がAであるディレクトリとファイルのみ表示させたい時は、A*.* と入力します。大文字と小文字は判別されます。また、AB*.* のように複数の文字で始まる設定をする事も可能です。

特定の拡張子を持つファイルのみ表示させたい時は、例えば *.NCD のように設定すれば、拡張子 NCD を持つファイルのみが表示されます。

但し、*A.* や *.*CD のように * の後ろに文字が続く設定は、出来ません。

< 検索文字設定画面 >

小文字モード	文字入力	14:59:57
検索文字 : *.*		
0	1	2 3 4 5 6 7 8 9
a	b	c d e f g h i j
k	l	m n o p q r s t
u	v	w x y z - . ¥ /
:	_	, % () * + (SP)
挿入 削除 大文字 取消 確定		

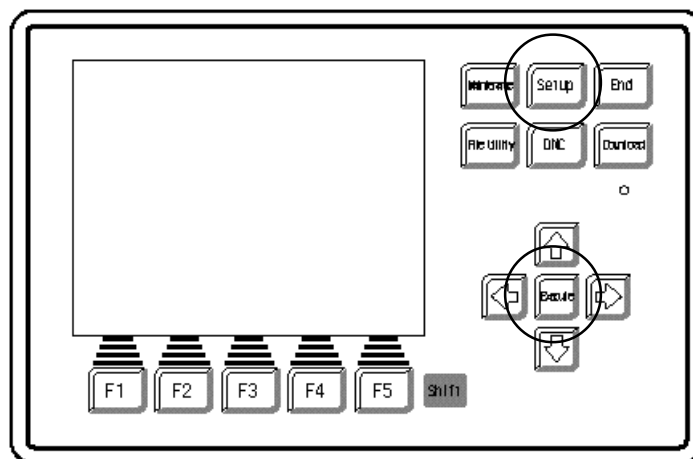
(8) グループファイルの編集

編集 を押すとグループファイルの編集画面へ移行します。

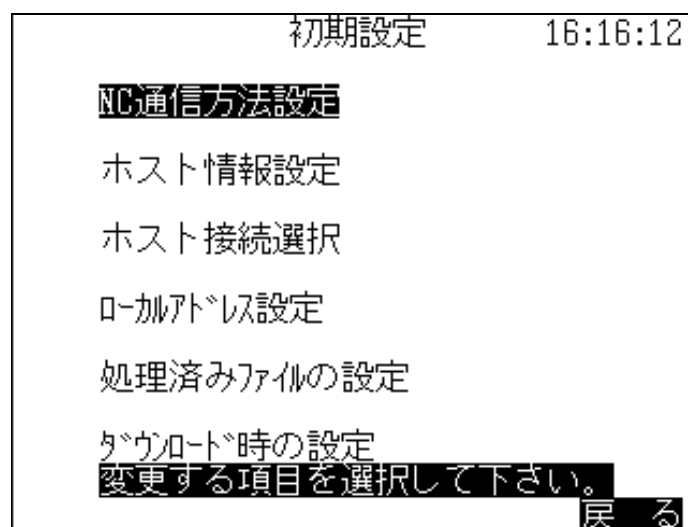
詳細につきましては、「6 - 6 . グループファイル編集画面 (P59)」を参照して下さい。

6 - 2 . 初期設定

トップメニュー画面が表示されている状態で、[Setup]キーを押すと初期設定画面が表示されます。
設定項目を選択し、[Execute]キーを押すとそれぞれの設定画面へと移行します。



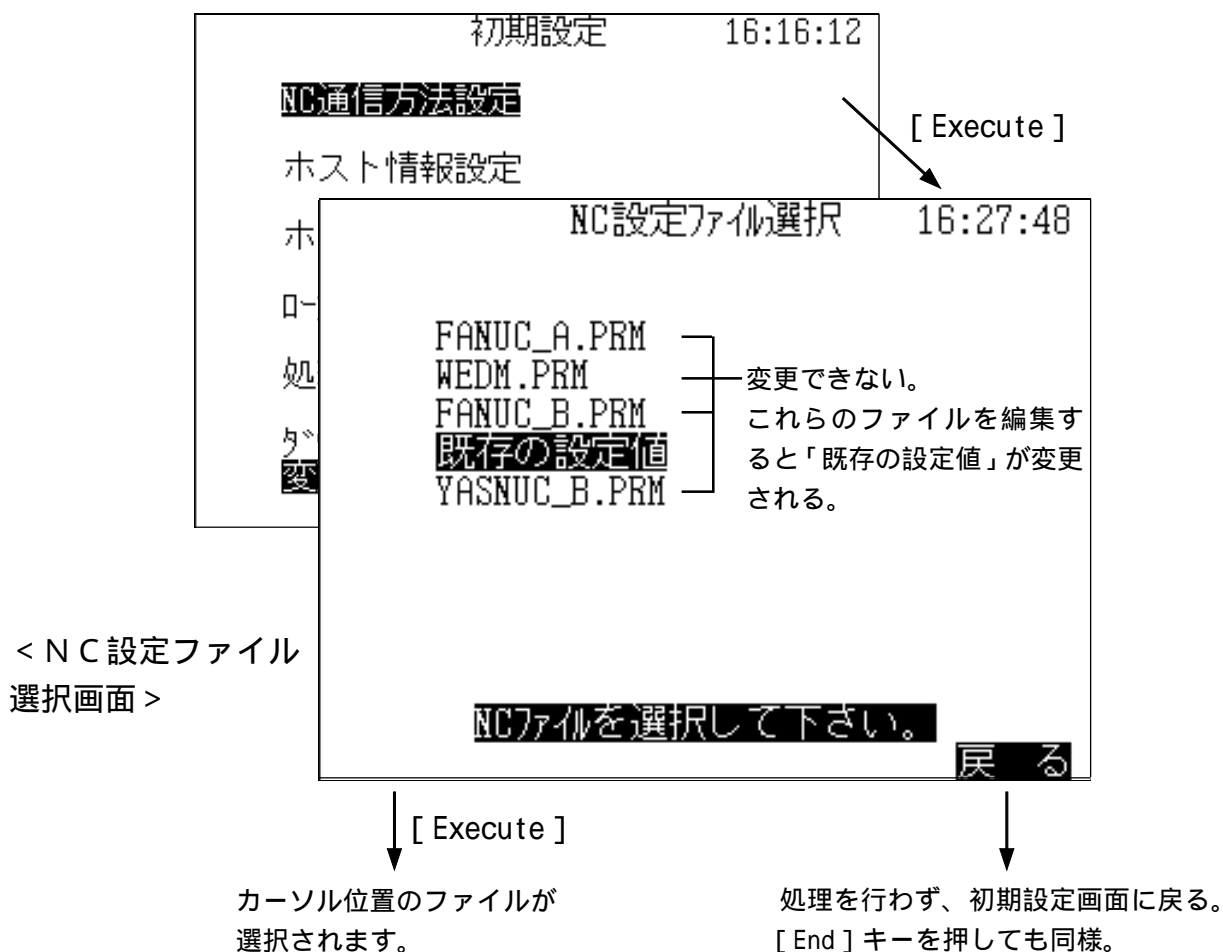
< 初期設定画面 >



(1) NC 通信方法設定

NC への送信手順を設定します。通信方法の設定には、プロトコルの設定、RS232C 通信パラメータの設定、NC データの変換方法の設定 があります。

NC 通信方法設定 を選択して [Execute] キーを押すと NC 設定ファイル選択画面に移行します。



NC との通信に適用される NC 設定ファイルは、「既存の設定値」です。

< 通信方法設定画面 >

通信方法設定 18:17:08

RS232C選択 : プロトコルA

RS232C設定

データ変換の設定

サブプログラム機能の設定

変更する項目を選択して下さい。

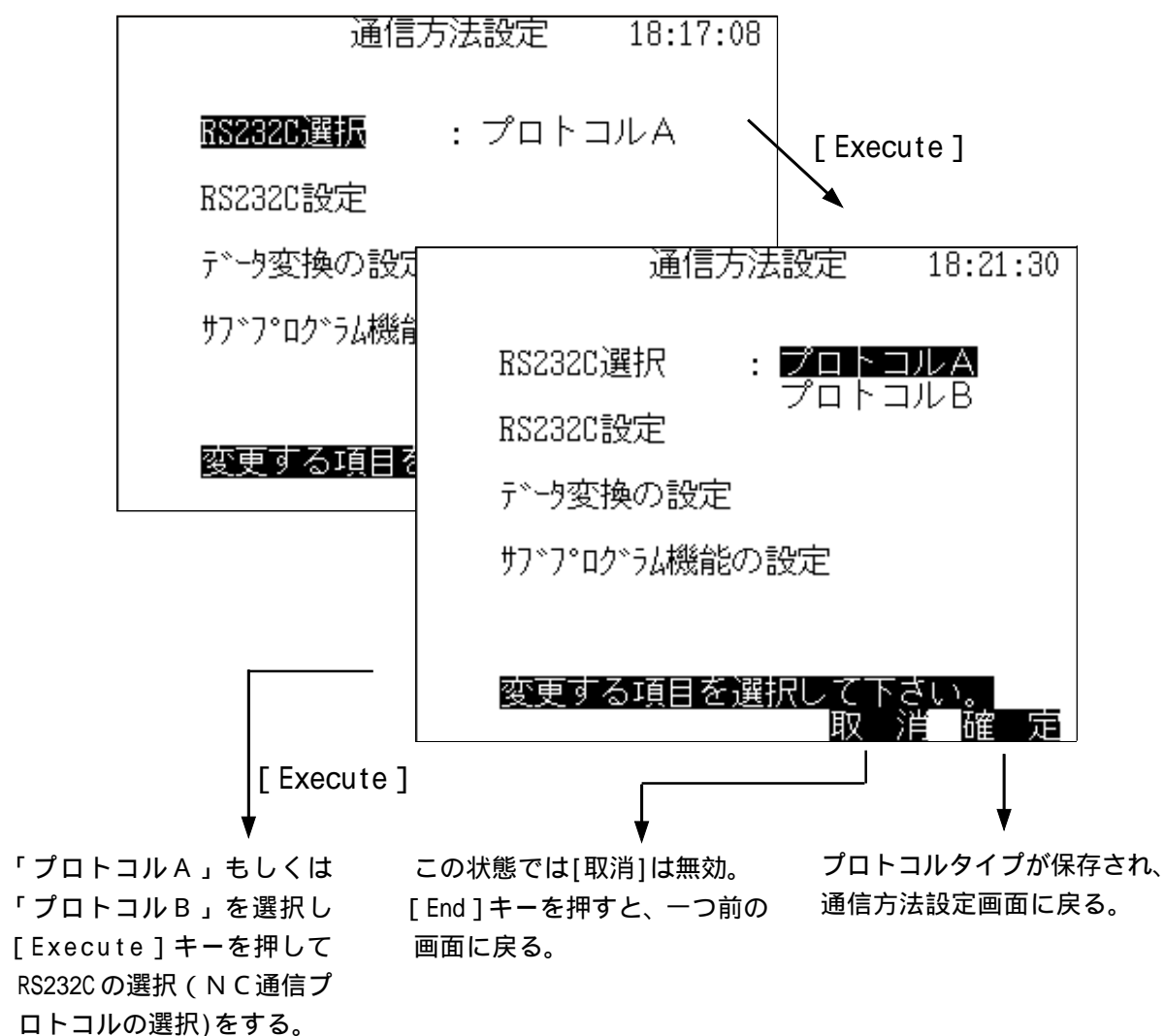
取 消 確 定

設定したパラメータはすべて取り消され、
初期設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

選択されたパラメータファイルのパラメータ、
又は、設定を変更したパラメータの値を「既
存の設定値」に書き込み、初期設定画面に戻
る。

RS232C 選択

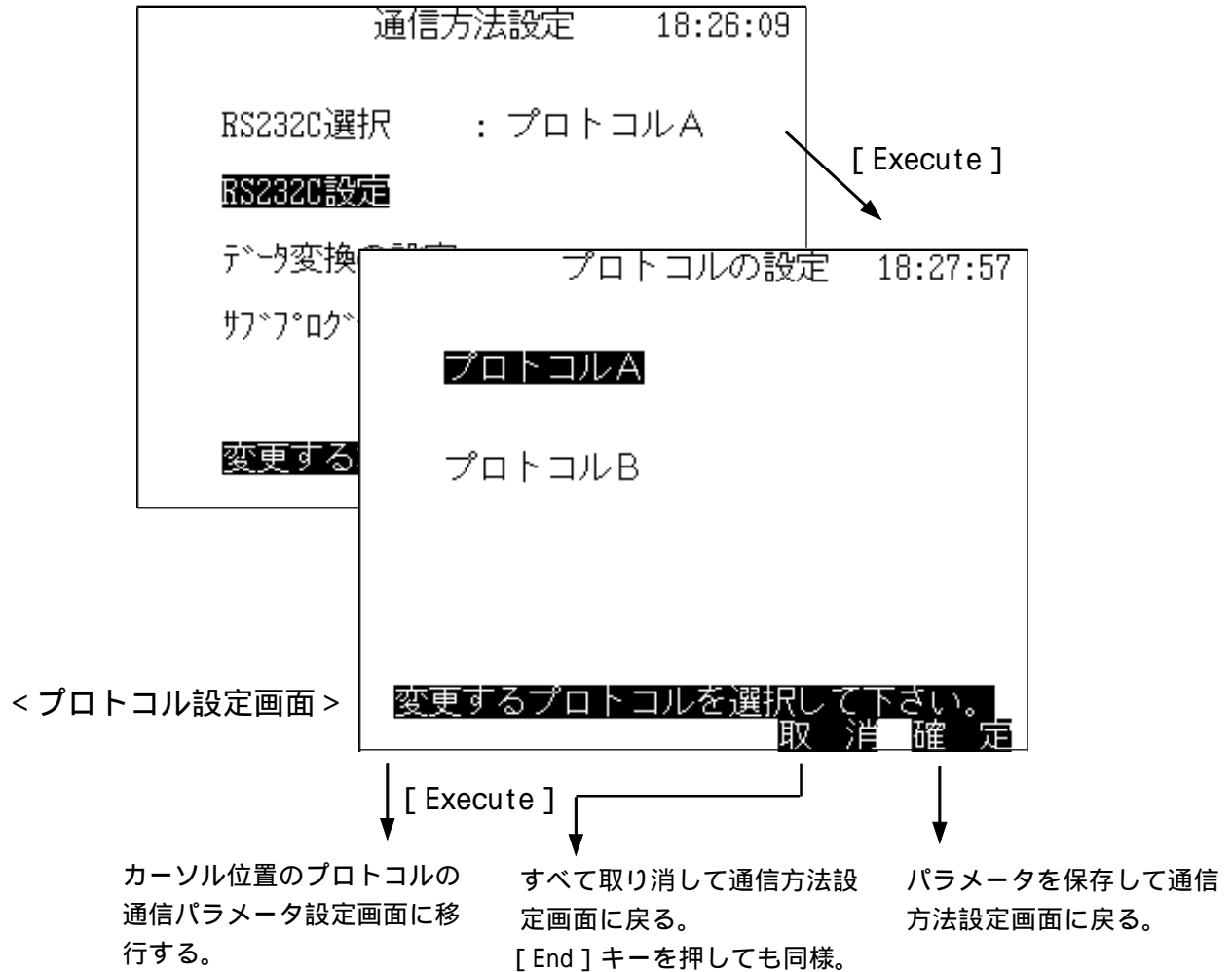
RS232C 選択 を選択して [Execute] キーを押して **プロトコルA** 或いは **プロトコルB** を選択し、[Execute] キーを押すと RS232C の選択 (N C 通信プロトコルの選択)ができます。



RS232C 設定

プロトコルA、プロトコルBの通信パラメータの設定を、それぞれ行うことができます。

RS232C 設定 を選択して [Execute] キーを押すと、プロトコルの設定画面が表示されます。



プロトコルA もしくは **プロトコルB** を選択し、[Execute] キーを押すとそれぞれのパラメータ設定画面に移行します。

<パラメータ設定画面>

プロトコルAの設定 17:41:29

ボーレート	: 19200
パリティ	: Non(StopBit:2)
EORコード	: CRコード
コマンドコード	: ASCIIコード

プロトコルAの設定をして下さい。
取消 確定

すべて取り消してプロトコル設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

プロトコルBの設定 17:44:53

ボーレート	: 9600
ストップビット	: 2ビット
パリティ	: Non
データ長	: 8ビット
ハドウェア手順	: DCコード制御
CTS制御	: チェックしない
RTS制御	: チェックしない
送信の設定	
受信の設定	

プロトコルBの設定をして下さい。
取消 確定

パラメータを保存してプロトコル設定画面に戻る。

[Execute]

プロトコルBの設定 10:05:37

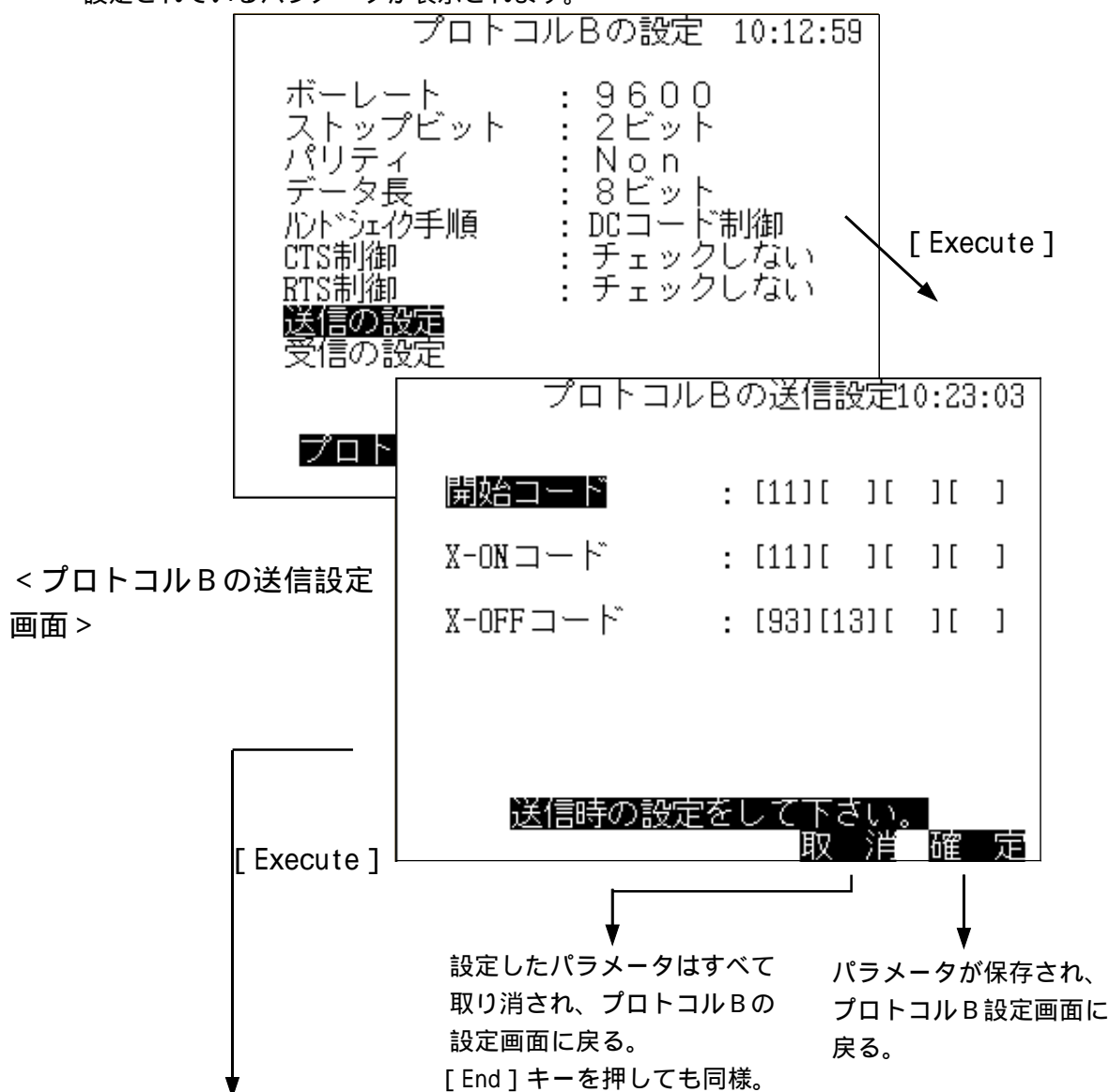
ボーレート	: 2400
ストップビット	: 4800
パリティ	: 9600
データ長	: 19200
ハドウェア手順	: 28800
CTS制御	: 38400
RTS制御	: チェックしない
送信の設定	
受信の設定	

プロトコルBの設定をして下さい。
取消 確定

それぞれの項目の選択パラメータが表示される。
設定するパラメータ上にカーソルを移動し、[Execute] キーを押して各項目のパラメータを設定する。

-B-1. 送信の設定

送信の設定 を選択して [Execute] キーを押すと、プロトコルBの送信設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。



<プロトコルBの送信設定画面>

小文字モード 文字入力 10:36:47

開始コード : [1][][][]

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
u	v	w	x	y	z	-	.	¥	/
:	_	,	%	()	*	+	(SP)	

削除 大文字 取消 確定

<文字入力画面>

文字入力画面の操作方法は、P 80を参照する。

-B-2. 受信の設定

[受信の設定] を選択して [Execute] キーを押すと、プロトコルBの受信設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。

プロトコルBの設定 10:47:50

ボーレート : 9600
 ストップビット : 2ビット
 パリティ : Non
 データ長 : 8ビット
 ハンドシェイク手順 : DCコード制御
 CTS制御 : チェックしない
 RTS制御 : チェックしない

送信の設定
受信の設定

[Execute]

<プロトコルBの受信設定画面>

プロトコルBの受信設定10:50:25

開始コード :
 [11][][][][][][][][]

X-ONコード : [11]
 X-OFFコード : [93]

受信時の設定をして下さい。
取消 **確定**

[Execute]

設定したパラメータはすべて取り消され、プロトコルBの設定画面に戻る。
 [End] キーを押しても同様。

パラメータが保存され、プロトコルBの設定画面に戻る。

小文字モード 文字入力 10:52:56

開始コード :
 [11][][][][][][][][]

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 a b c d e f g h i j
 k l m n o p q r s t
 u v w x y z - . ¥ /
 : _ , % () * + (SP)

削除 **大文字** **取消** **確定**

<文字入力画面>

文字入力画面の操作方法は、P 80を参照する。

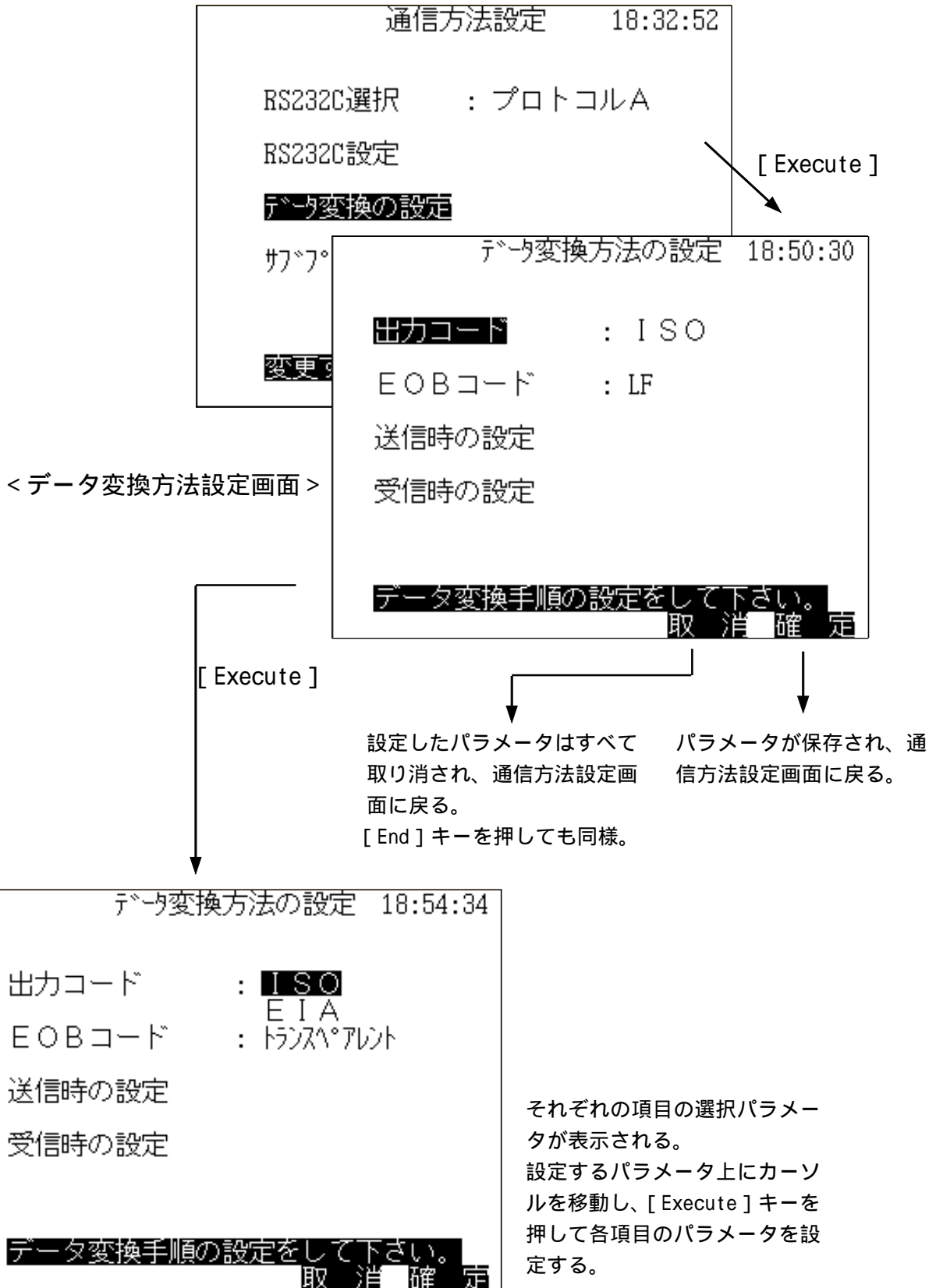
各選択パラメータは以下の通りです。

	プロトコルA	プロトコルB
ボーレート	2400 4800 9600 19200 28800 38400	2400 4800 9600 19200 28800 38400
ストップビット	(パリティに連動)	1ビット 2ビット
パリティ	Non (StopBit:2) Even (StopBit:1) Odd (StopBit:1)	Non Even Odd
データ長	(8ビットに固定)	7ビット 8ビット
EORコード	ETXコード CRコード	
コマンドコード	ISOコード ASCIIコード	
ハンドシェイク 手順	(ハードウェア制 御に固定)	DCコード制御 X-ON/X-OFF制御 NC制御 ハードウェア制御
CTS制御		チェックする チェックしない
RTS制御		チェックする チェックしない
送信の設定		開始コード X-ONコード X-OFFコード (各々のコードは、or扱 いで4種類ずつ、16進 コードで設定する。)
受信の設定		開始コード X-ONコード X-OFFコード (開始コードは、8文字 の文字列まで16進コー ドで設定する。 Xon/Xoffコードは16進 コードで設定する。)

* 文字を直接入力する時は、画面上の文字入力画面から行う。(P80 参照)

データ変換の設定

データ変換の設定 を選択して [Execute] キーを押すとデータ変換方法設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。



-1. 送信時の設定

送信時の設定 を選択して [Execute] キーを押すと、送信時の設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。

送信スタートファイルマーク 又は 送信エンドファイルマーク を選んで [Execute] キーを押すと、文字入力画面 (P80 参照) に移行する。
", (コンマ) は、E O B の挿入を意味する。
特殊コードは、0xnn 形式の 16 進数で入力できる。

送信時の設定		19:38:49
送信スタートファイルマーク	:	% ,
送信エンドファイルマーク	:	M30,%
TVチェック付加	:	する
スキップ処理の設定		
リターゲ/トレーラーの設定		
送信時の変換手順を設定して下さい。		
取消 確定		

設定したパラメータはすべて取り消され、データ変換方法の設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

パラメータが保存され、データ変換方法の設定画面に戻る。

-1-1. スキップ処理の設定

スキップ処理の設定 を選択して [Execute] キーを押すと、スキップ処理の設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。

有効開始コード、有効終了コード 又は スキップ文字列 を選んで [Execute] キーを押すと、文字入力画面 (P80 参照) に移行する。
", (コンマ) は、参照文字列の区切りを意味する。
特殊コードは、0xnn 形式の 16 進数で入力できる。

スキップ処理の設定		15:07:46
有効開始コード	:	
有効終了コード	:	
スキップ文字列	:	M2,M02,M30,%
コメントスキップ	:	しない
X0,Y0,Z0スキップ	:	しない
送信時の変換手順を設定して下さい。		
取消 確定		

設定したパラメータはすべて取り消され、送信時の設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

パラメータが保存され、送信時の設定画面に戻る。

-1-2. リーダー/トレーラーの設定

リーダー/トレーラーの設定 を選択して [Execute] キーを押すと、リーダー/トレーラーの設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。

リーダー数、リーダー(コード)、トレーラー数、トレーラー(コード)を選んで [Execute] キーを押すと、文字入力画面(P80参照)に移行する。リーダー数とトレーラー数は、10進数で入力する。リーダー(コード)とトレーラー(コード)は、16進数で入力する。

リーダー/トレーラーの設定		20:30:59
リーダー数	:	0
リーダー	:	[00]
トレーラー数	:	0
トレーラー	:	[00]
リーダー/トレーラーを設定して下さい。		
		取消 確定

設定したパラメータはすべて取り消され、送信時の設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

パラメータが保存され、送信時の設定画面に戻る。

-2. 受信時の設定

受信時の設定 を選択して [Execute] キーを押すと、受信時の設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。

受信スタートファイルマーク、受信エンドファイルマーク、オートファイルネーム、デフォルト拡張子を選んで [Execute] キーを押すと、文字入力画面(P80参照)に移行する。ファイルマーク入力では、" ,"(コンマ)は、参照文字の区切りを意味する。特殊コードは、0xnn形式の16進数で入力できる。

受信時の設定		20:48:52
受信スタートファイルマーク	:	0x12
受信エンドファイルマーク	:	0x14
TVチェック	:	しない
ファイルマークを保存	:	しない
オートファイルネーム	:	0
デフォルト拡張子	:	
受信時の変換手順を設定して下さい。		
		取消 確定

設定したパラメータはすべて取り消され、データ変換方法の設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

パラメータが保存され、データ変換方法の設定画面に戻る。

各パラメータの選択肢、或いは個別入力パラメータは以下の通りです。

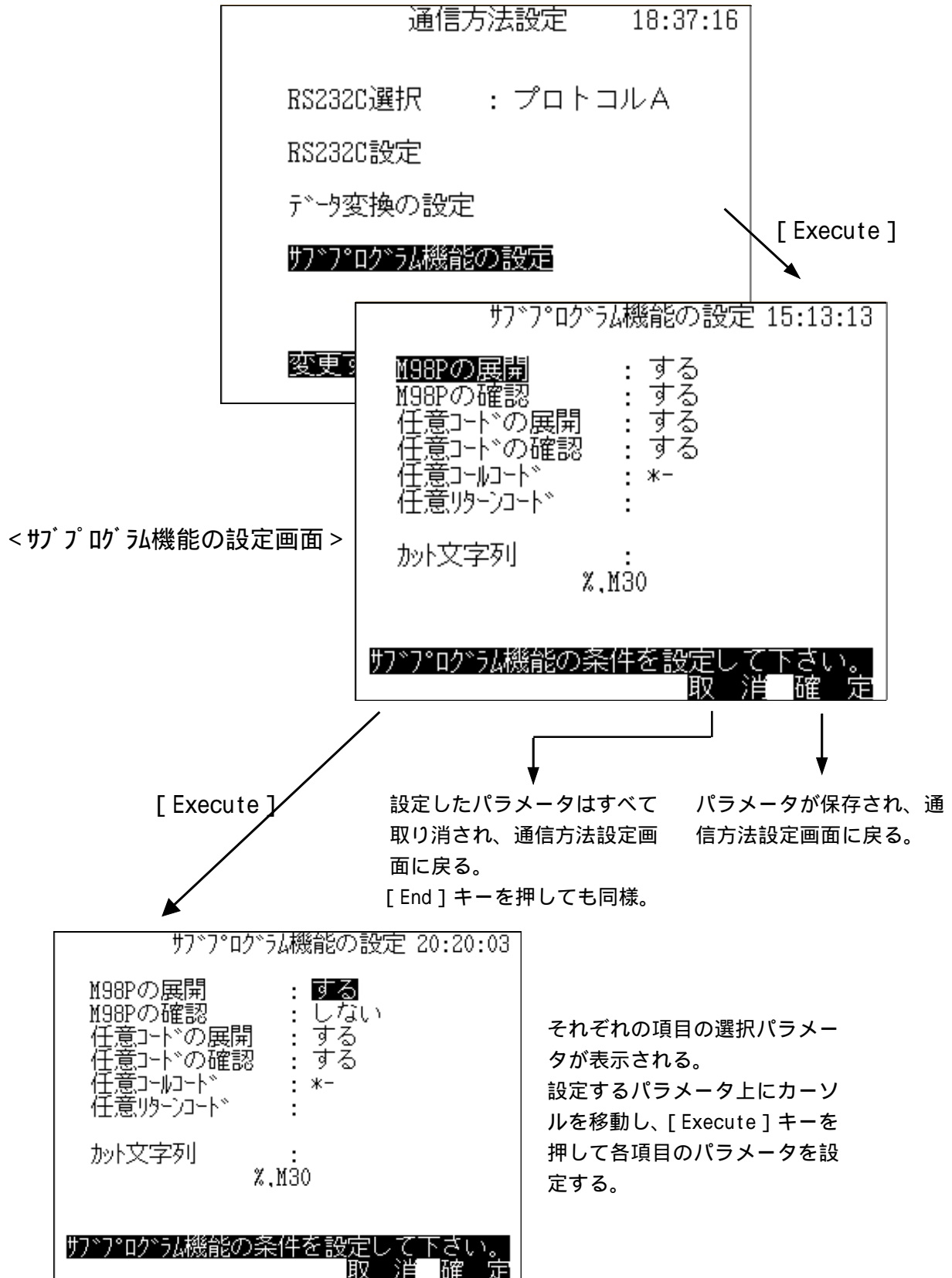
出力コード	ISO EIA トランスペアレント		
EOB コード	CR-LF LF-CR LF-CR-CR CR LF 無変換		
送信時の設定	送信スタートファイルマーク (個別入力)		
	送信エンドファイルマーク (個別入力)		
	TVチェック付加	する しない	
	スキップ処理の設定	有効開始コード (個別入力)	
		有効終了コード (個別入力)	
		スキップ文字列 (個別入力)	
		コメントスキップ	する しない
		X0,Y0,Z0 スキップ	する しない
	リーダー/トレーラーの設定	リーダー数	(個別入力)
		リーダー	(個別入力)
トレーラー数		(個別入力)	
トレーラー		(個別入力)	
受信時の設定	受信スタートファイルマーク (個別入力)		
	受信エンドファイルマーク (個別入力)		
	TVチェック	する しない	
	受信ファイルマークを保存	する しない	
	オートファイルネーム	(個別入力)	
	デフォルト拡張子	(個別入力)	

* 個別入力では、文字入力画面 (P 80 参照) に移行して処理する。

* スキップ処理の設定の有効開始コードと有効終了コードは、データの送信時にそのコード (文字列) も送信される。

サブプログラム機能の設定

サブプログラム機能の設定 を選択して [Execute] キーを押すと、サブプログラム機能の設定画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。



-1. 任意コール/リターンコードの設定

任意コールコード または **任意リターンコード** を選択して [Execute] キーを押すと、文字入力画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。

文字入力画面の詳細は、P.80 を参照すること。

特殊コードは、0xNN形式の16進数で入力できる。

小文字モード	文字入力	15:19:49
任意コールコード :		
0x-		
0	1	2 3 4 5 6 7 8 9
a	b	c d e f g h i j
k	l	m n o p q r s t
u	v	w x y z - . ¥ /
:	_	, % () * + (SP)
挿入	削除	大文字 取消 確定

↓

入力した文字列は総て取り消され、
サブプログラム機能の設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

↓

入力した文字列が保存され、
サブプログラム機能の設定画面に戻る。

-2. カット文字列の設定

カット文字列 を選択して [Execute] キーを押すと、文字入力画面に移行し、設定されているパラメータが表示されます。

文字入力画面の詳細は、P.80 を参照すること。

","(コンマ)は、参照文字列の区切りを意味する。

特殊コードは、0xNN形式の16進数で入力できる。

小文字モード	文字入力	15:22:46
カット文字列 :		
%,M30		
0	1	2 3 4 5 6 7 8 9
a	b	c d e f g h i j
k	l	m n o p q r s t
u	v	w x y z - . ¥ /
:	_	, % () * + (SP)
挿入	削除	大文字 取消 確定

↓

入力した文字列は総て取り消され、
サブプログラム機能の設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

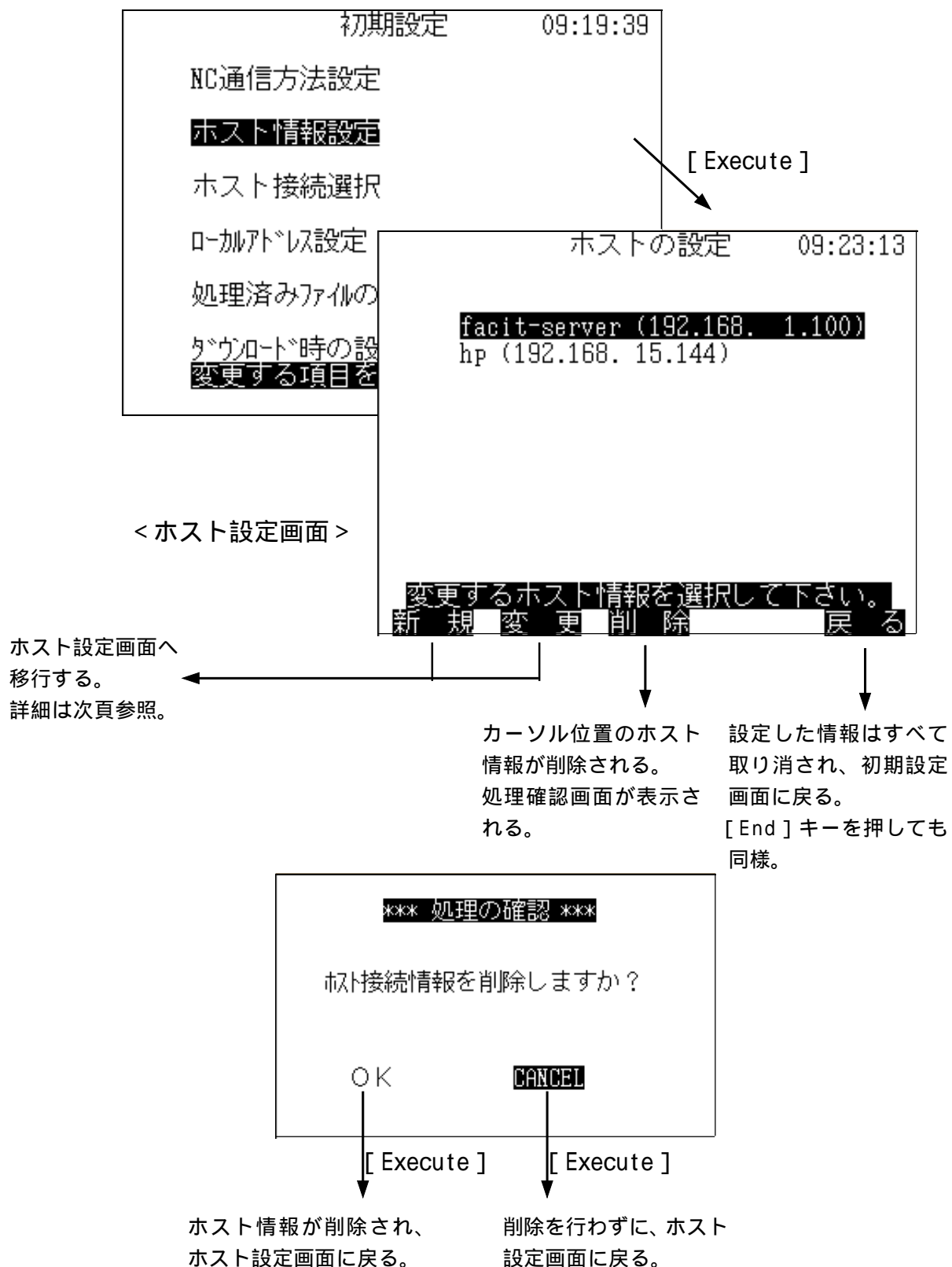
↓

入力した文字列が保存され、
サブプログラム機能の設定画面に戻る。

(2) ホスト情報設定

データを Upload/Download するためのホストマシンの条件を設定します。

ホスト情報設定 を選択して [Execute] キーを押すと、ホスト設定画面に移行し、設定されているホスト名が表示されます。

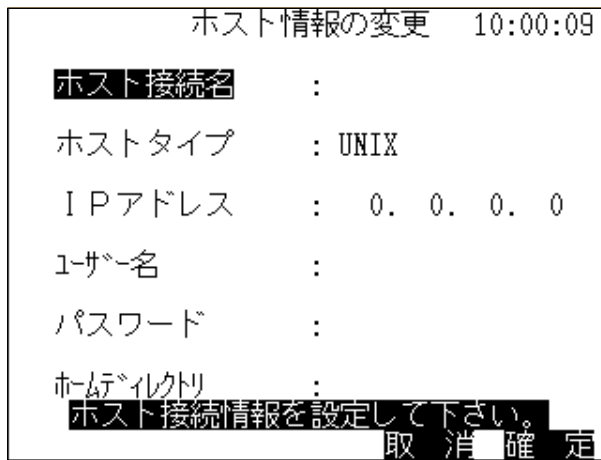




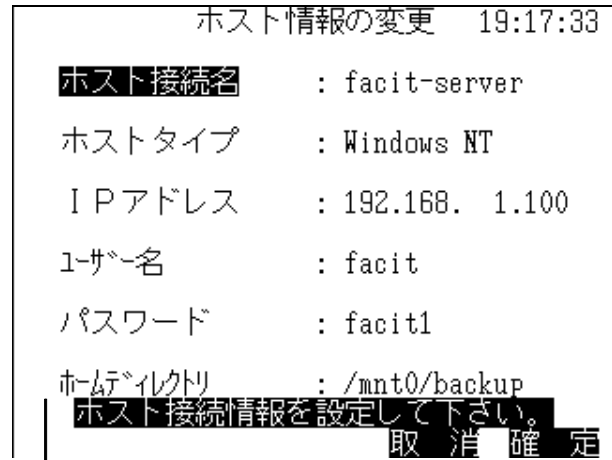
新しいホスト情報の登録をする。空のホスト情報画面に移行する。

カーソル位置のホストのホスト情報画面に移行し、ホスト情報を変更する。

< ホスト情報画面 >



設定したホスト情報はすべて取り消されホスト設定画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。



設定されたホスト情報が保存され、ホスト設定画面に戻る。

[Execute]

カーソル位置の項目の入力が可能になり、文字入力画面 (P80 参照) に移行する。

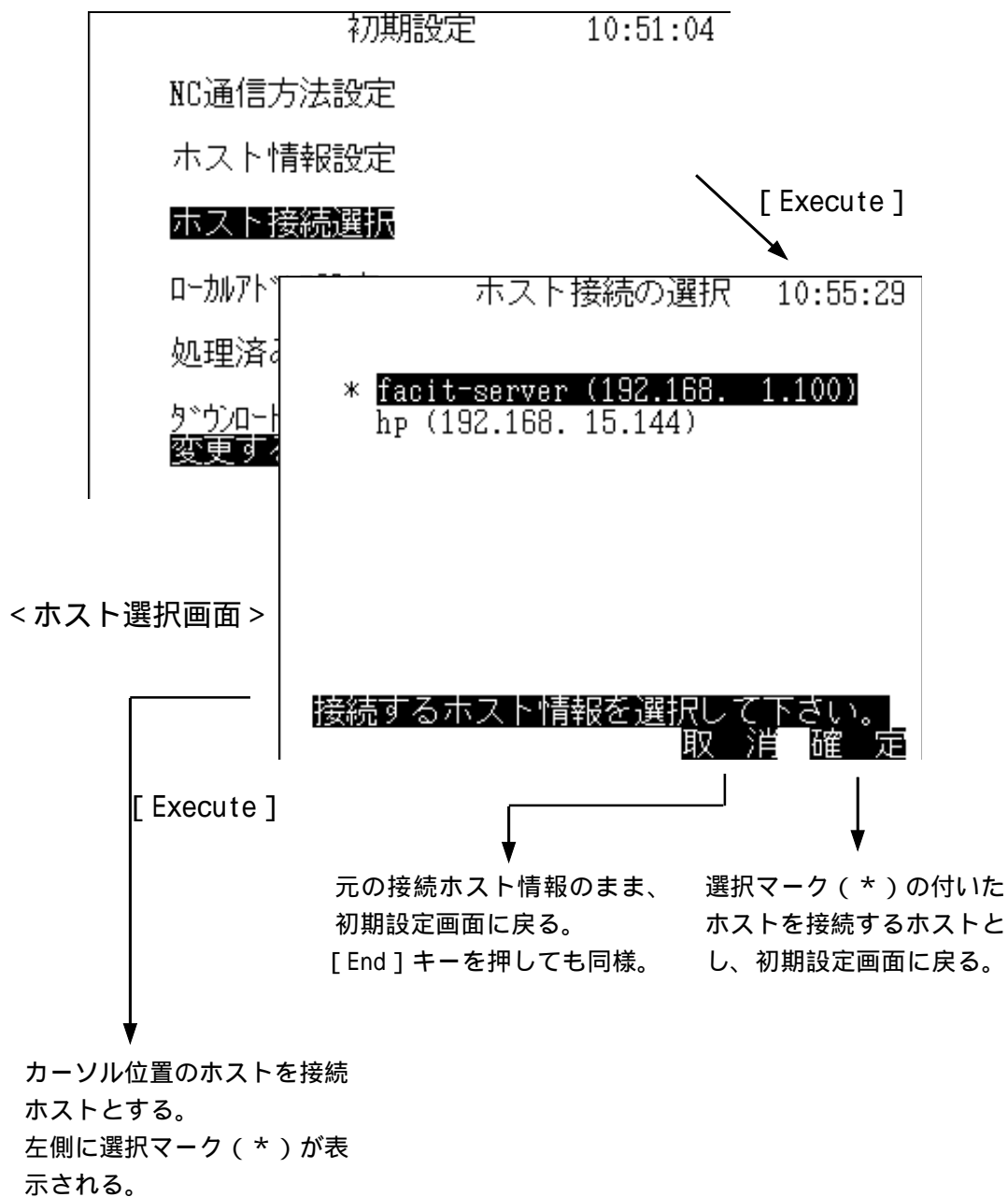
IPアドレス等の情報は、ネットワーク管理者にお問い合わせ下さい。

(3) ホスト接続選択

設定されているホスト情報の中から接続するホスト情報を選択します。

ホスト接続選択 を選択して [Execute] キーを押すと、ホスト選択画面に移行し、設定されているホスト名が表示されます。

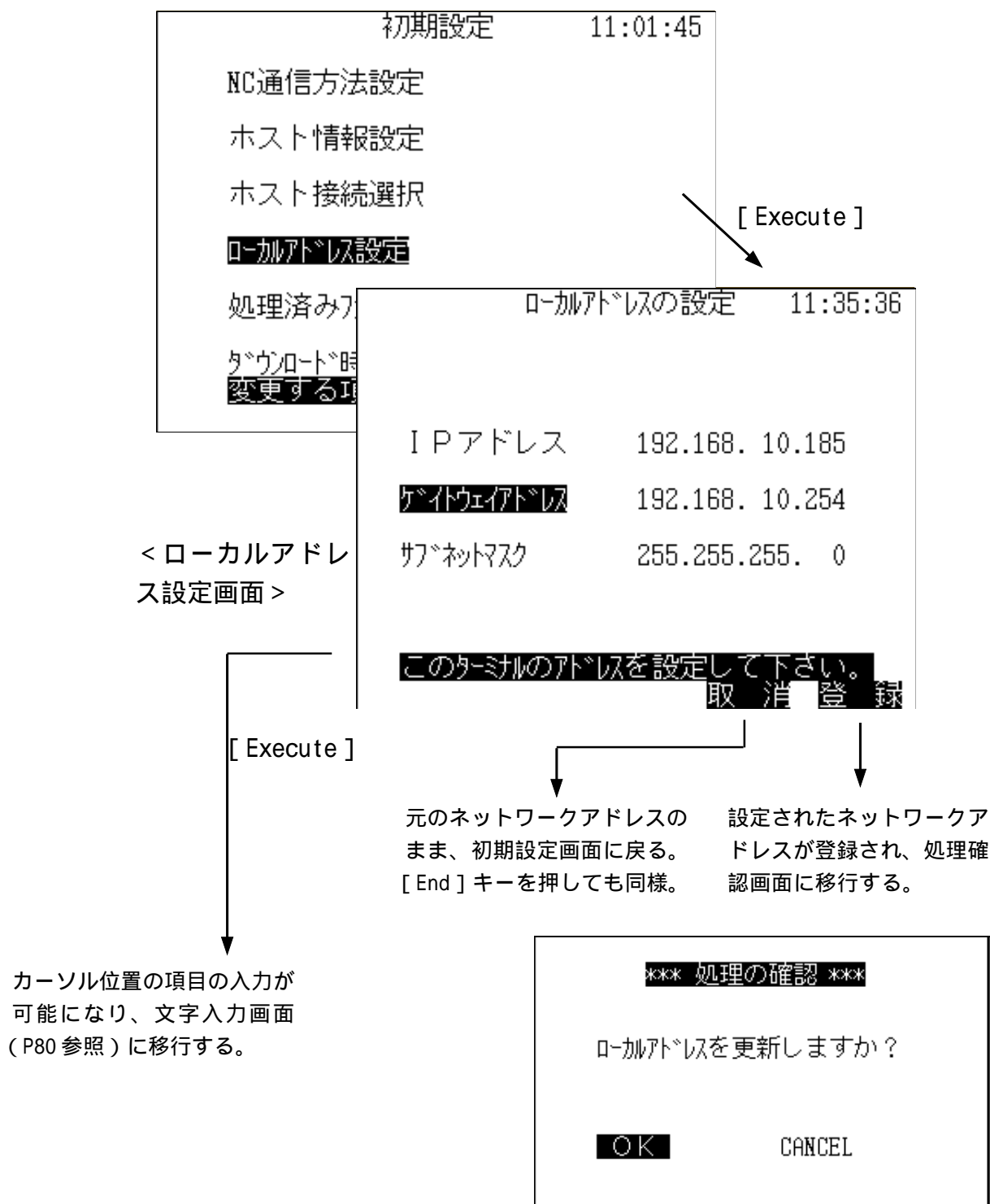
現在接続しているホストの左に選択マーク (*) が表示されます。



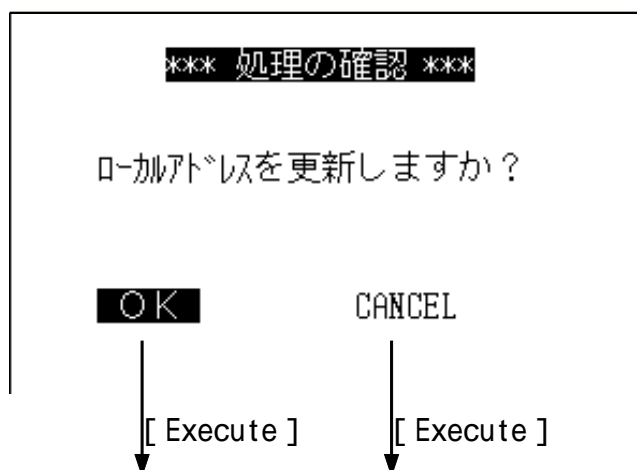
(4) ローカルアドレス設定

本装置のネットワークアドレスを設定します。

ローカルアドレス設定 を選択して [Execute] キーを押すと、ローカルアドレス設定画面に移行し、設定されているネットワークアドレスが表示されます。

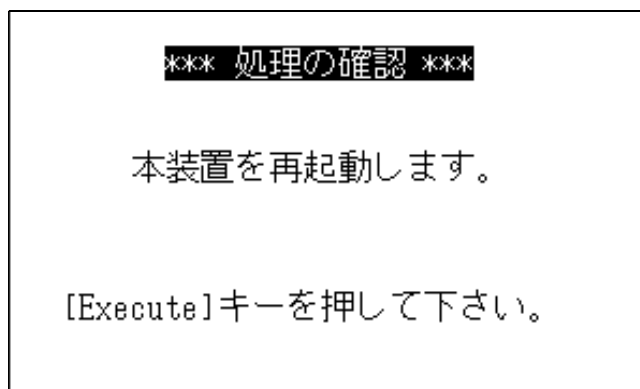


ゲートウェイがない場合は、「ゲートウェイアドレス」は「0.0.0.0」を設定して下さい。



設定されたネットワークアドレスが保存され、次の処理確認画面に移行する。

元のネットワークアドレスのまま、ローカルアドレス設定画面に戻る。



↓ [Execute]

設定されたネットワークアドレスを登録し、再起動する。

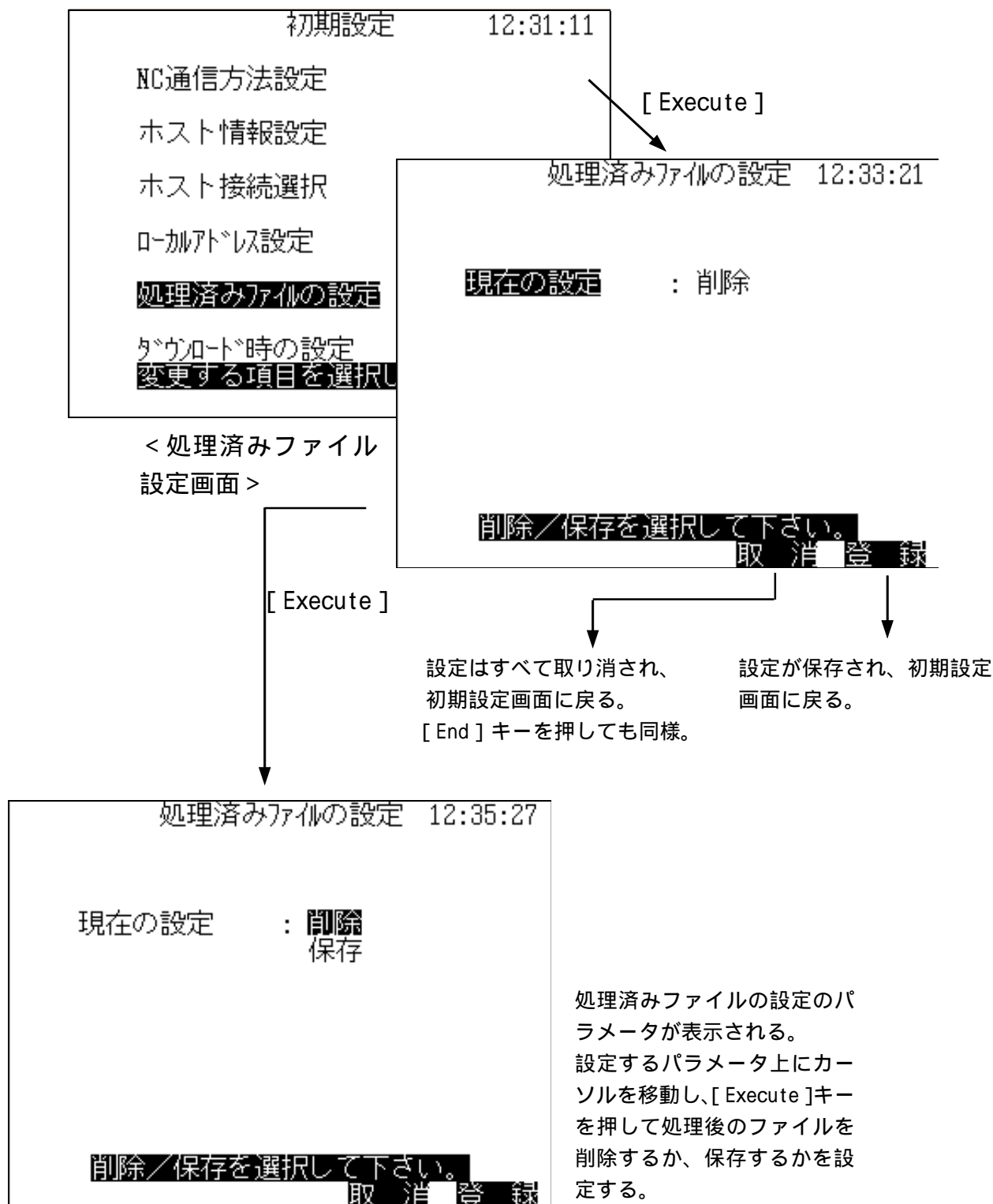
(P 7 7 の 注 意 参 照)

起動時と同様の画面が表示される。

(5) 処理済みファイルの設定

DNC処理後に、ダウンロードしたファイルを削除するか否かを設定します。

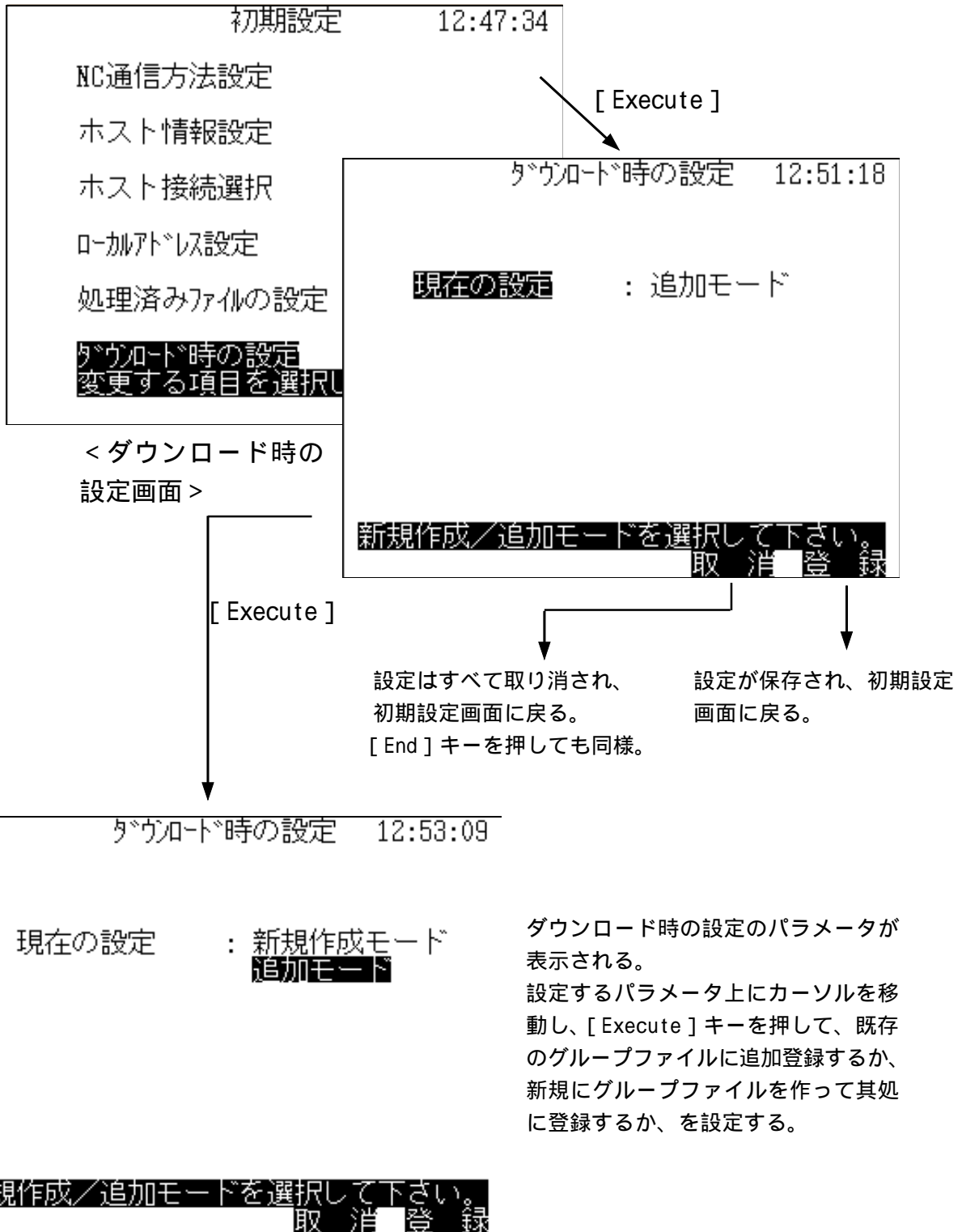
処理済みファイルの設定 を選択して [Execute] キーを押すと、処理済みファイル設定画面に移行し、現在の設定が表示されます。



(6) ダウンロード時の設定

DNC 処理時に、ダウンロードしたファイルを、既存のグループファイルに追加登録するか、新規にグループファイルを作って其処に登録するか、を設定します。

ダウンロード時の設定 を選択して [Execute] キーを押すと、ダウンロード時の設定画面に移行し、現在の設定が表示されます。



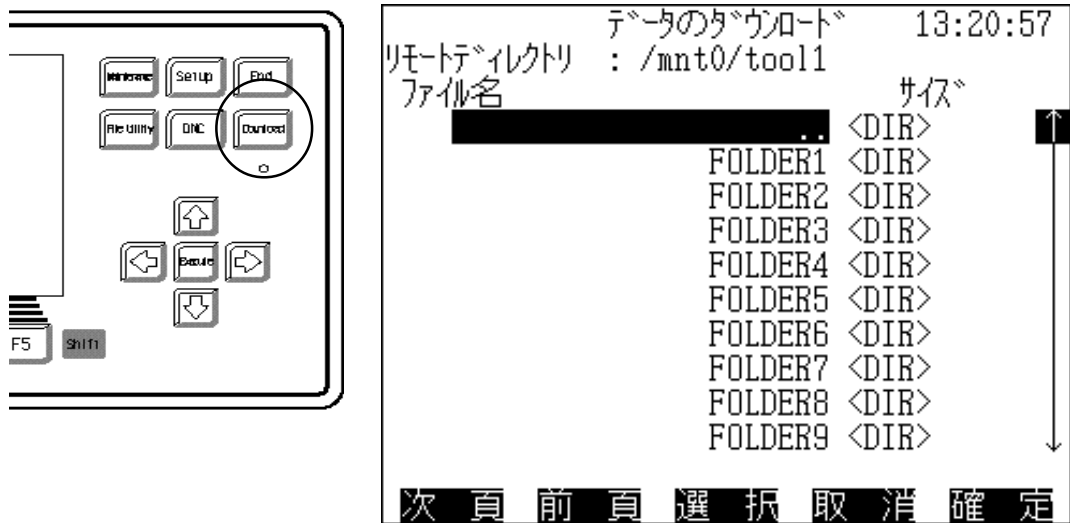
6 - 3 . ダウンロード

トップメニュー画面のリモート表示されている状態で、[Download] キーを押すとダウンロード画面が表示されます。

次頁 **前頁** はトップメニュー画面と同様の表示動作です。

ホストにあるNCファイルとグループファイルをローカル側にダウンロードします。ダウンロードの対象となるものがNCファイル単体が、ディレクトリか、グループファイルかによって処理方法が違います。詳細はP37 ~ P40 までをご覧ください。

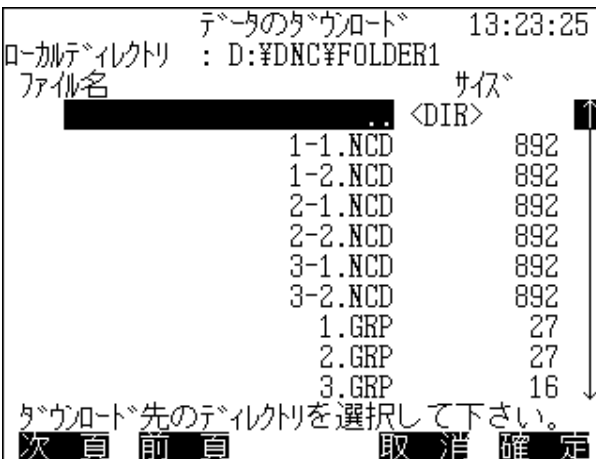
<ダウンロード画面>



カーソル位置のファイルの選択状態が変更される。選択されているファイルの左側には選択順が表示される。(複数選択可能。他のディレクトリにまたがったの選択は不可。)

処理を行わず、トップメニュー画面に戻る。
[End] キーを押しても同様。

選択ファイルを本装置にダウンロードすべくダウンロード先ディレクトリ設定画面に移行する。



<ダウンロード先ディレクトリ設定画面>

データのダウンロード 13:23:25
 追加ディレクトリ : D:\DNC\FOLDER1
 ファイル名 サイズ
 <DIR>
 1-1.NCD 892
 1-2.NCD 892
 2-1.NCD 892
 2-2.NCD 892
 3-1.NCD 892
 3-2.NCD 892
 1.GRP 27
 2.GRP 27
 3.GRP 16
 ダウンロード先のディレクトリを選択して下さい。
 次頁 前頁 取消 確定

ダウンロード先ディレクトリ

ダウンロードを行わず、ダウンロード画面に戻る。
 [End] キーを押しても同様。

ダウンロードを開始し、
 処理確認画面に移行する。

グループファイルに登録するか否かの違いは次頁以降を参照して下さい。

*** 処理の確認 ***
 グループファイルに登録しますか?
 OK CANCEL

[Execute]

[Execute]

選択ファイルを“ DEFAULT.GRP ”に登録してダウンロードし、ダウンロード画面に戻る。
 選択ファイルが複数指定されている場合は、選択順に登録される。

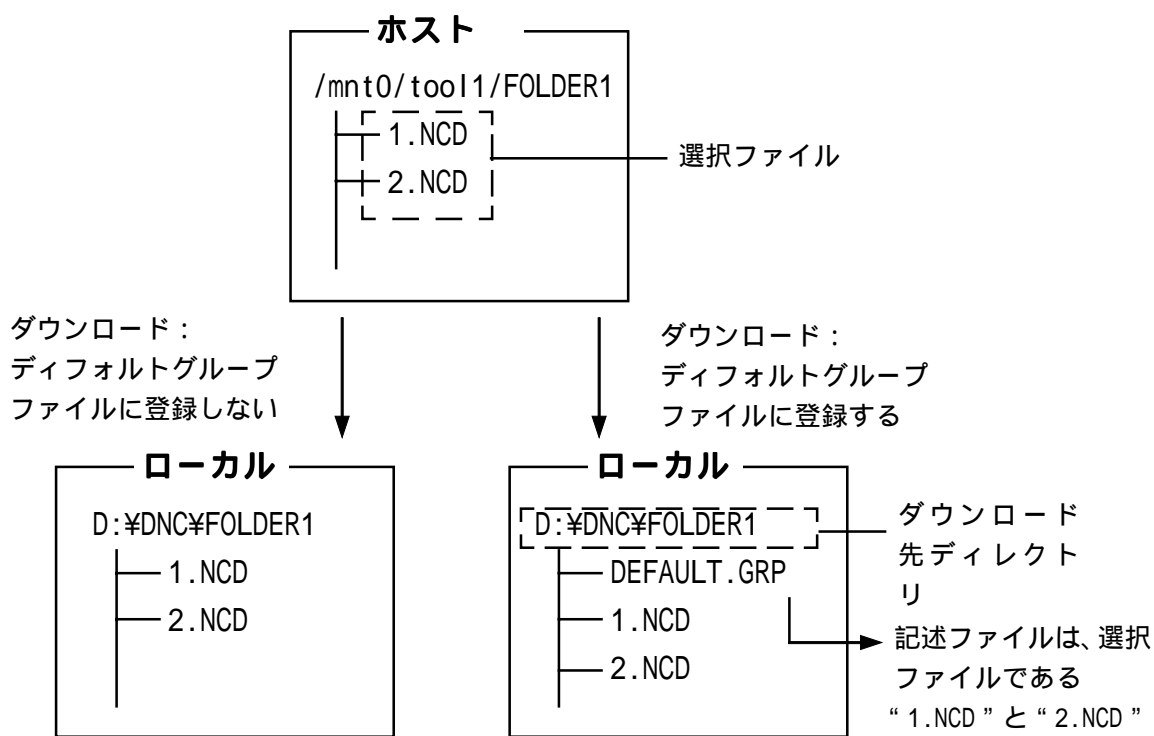
選択ファイルをダウンロードし、ダウンロード画面に戻る。

ダウンロード先ディレクトリ設定画面で **確定** を押した後、選択ファイルと同名のファイルがダウンロード先ディレクトリに存在する場合、上書き確認が行われます。

ダウンロードの対象となるものがNCファイル単体か、ディレクトリか、グループファイルかによってそれぞれ、処理の方法が違います。

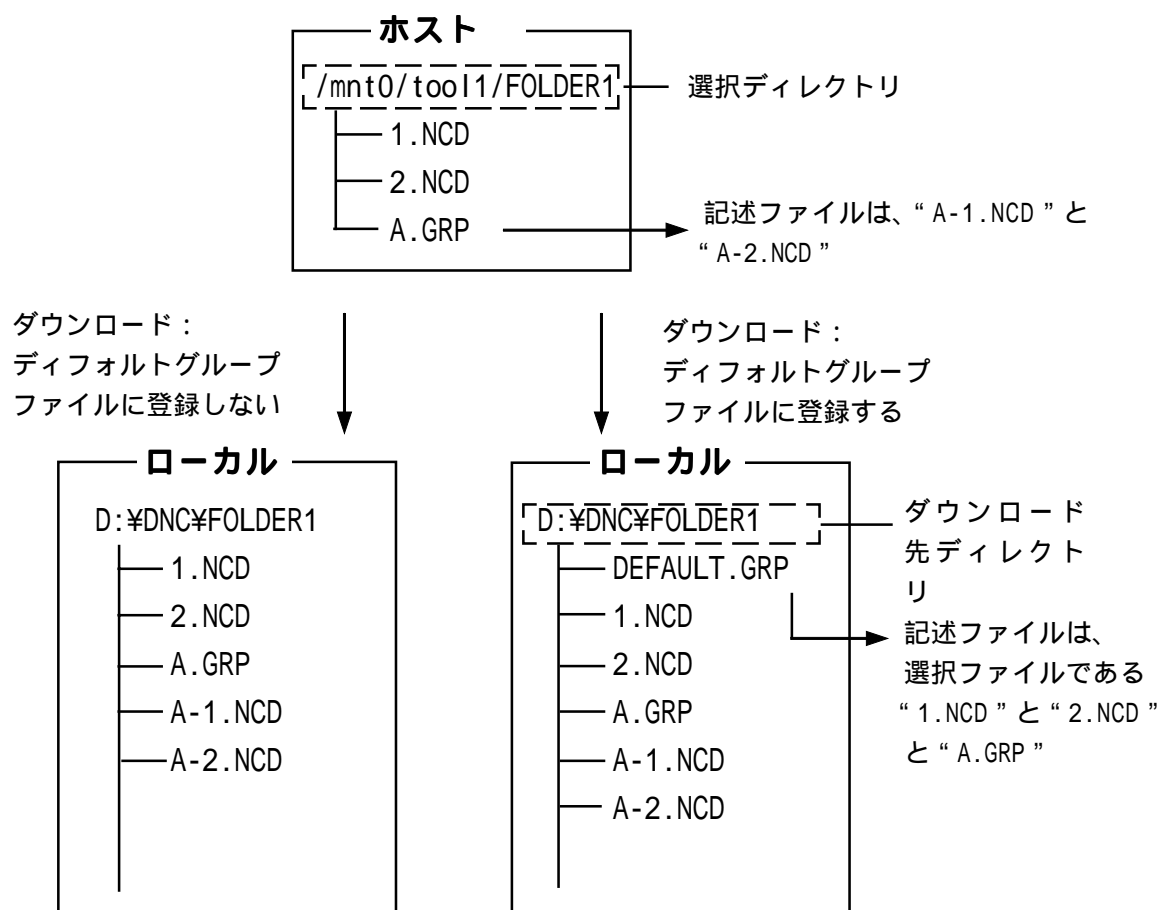
NCファイル単体を指定した場合

指定されたローカル側のディレクトリに、ホスト側の選択ファイルをコピーします。



ディレクトリを指定した場合

指定されたローカル側のディレクトリに、ホスト側の選択ディレクトリ下のファイルをコピーします。処理対象はNCファイルとグループファイルで、ディレクトリは含まれません。デフォルトグループファイル“DEFAULT.GRP”に登録する場合、グループファイル内のファイル順序は、ホストのディレクトリ内のファイルのサーチ順であるため、保証されません。



“A.GRP”の記述ファイルである“A-1.NCD”と“A-2.NCD”も全てコピーされます。

グループファイルを指定した場合

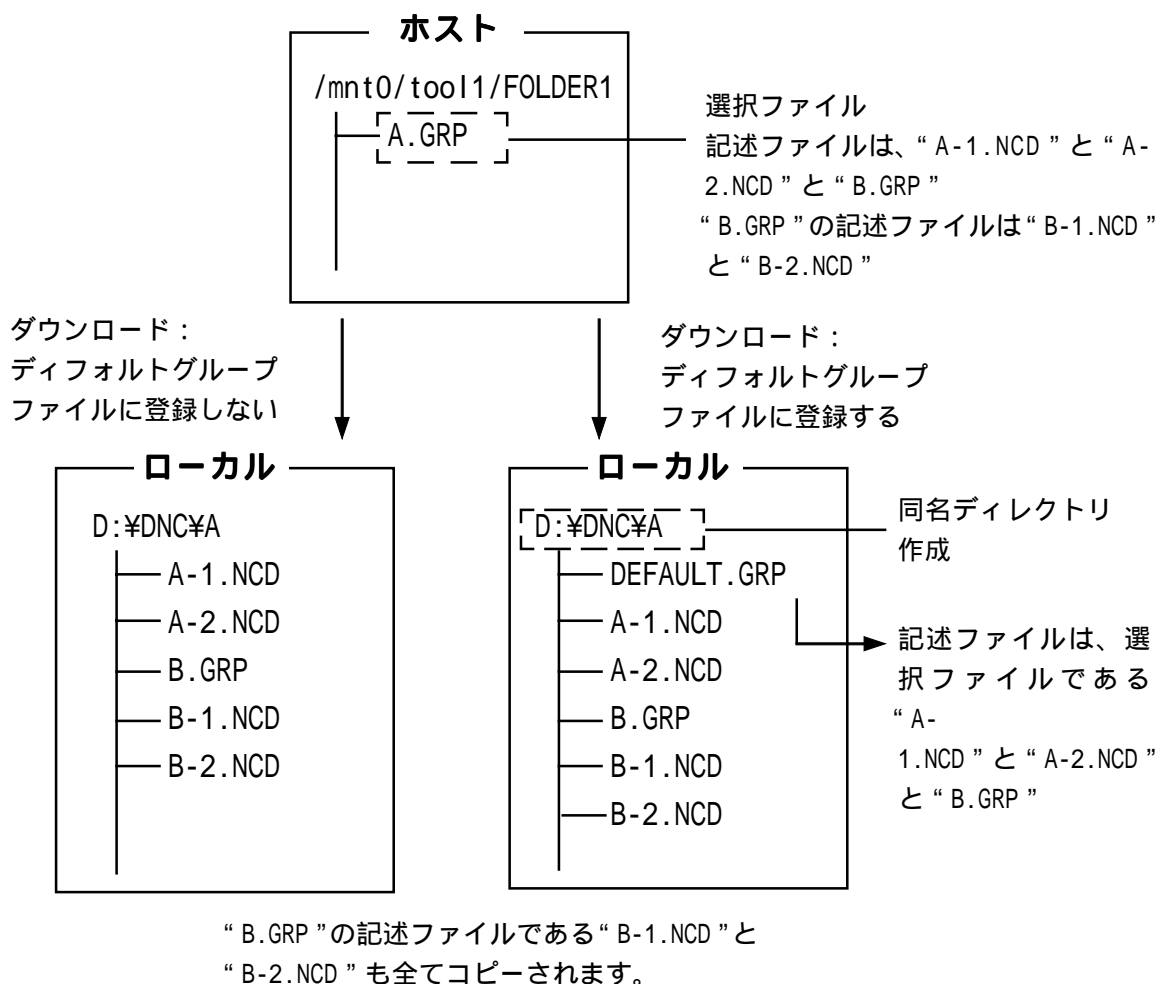
D:¥DNC ディレクトリの下に、グループファイル名（拡張子は除く）と同名のディレクトリを作成します。グループファイル名は8文字以内とします。8文字を超えるものはローカル側に同名のディレクトリを作成できませんので、ご注意ください。

既に、同名のディレクトリがあった場合は、そのディレクトリを対象とします。

同名ディレクトリの下に、選択グループファイル内に記述されているNCファイルをコピーします。

選択グループファイルの中に記述されているグループファイルもダウンロードされ、そのグループファイルの中に記述されているファイルも全てダウンロードされます。

**リモート側グループファイルのパスの処理に関し、制限事項があります。
P 4 0 を必ずお読みいただき、よくご理解の上で御利用下さい。**



グループファイルのパス処理に関する制限事項

グループファイル内に記述されているファイルのパスに関しては、システムプログラムの仕様によって相違がありますので、御注意下さい。

Version2.0 Revision1 以前のシステムは、記述されたパスを無視して処理します。
この為、ダウンロードを実行しているディレクトリ(カレントディレクトリ)からだけ、ファイルをダウンロードします。

Version2.0 Revision2 以降のシステムは、記述されたパスを処理し、パス通りのディレクトリからファイルをダウンロードします。パスの記述は、絶対パス、相対パス、パスなし、何れも処理されます。相対パス、パスなしに関しては、カレントディレクトリ基準で処理されます。絶対パス、相対パスは、それが付加されているファイルの処理にのみ関与し、以後のカレントディレクトリを変更するものではありません。

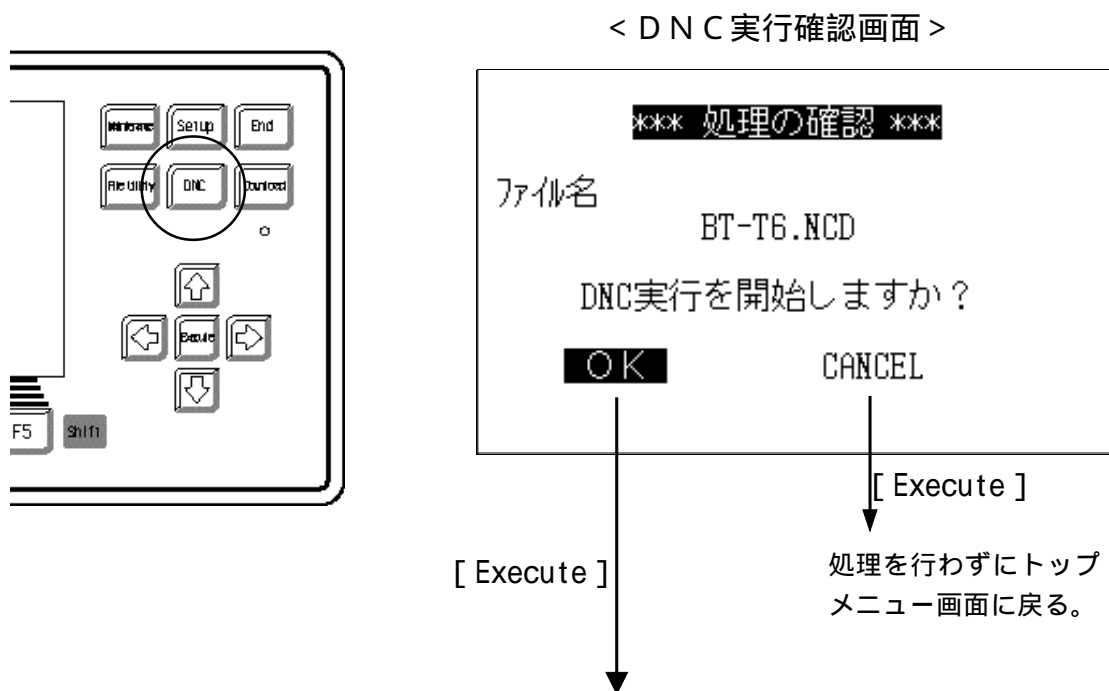
然し、何れの場合も一つのローカルディレクトリにダウンロードされますので、同じファイル名のファイルが複数ダウンロードされた場合には、最後にダウンロードされたファイルが唯一のファイルとしてローカルディレクトリに残ります。

グループファイルに含まれるファイルの名前には、十分御注意下さい。

. DNCの開始

トップメニュー画面でDNCを行うファイルを選択し、[DNC]キーを押すとDNC実行確認画面が表示されます。ここで **OK** を選択し [Execute] キーを押すと、サブプログラム機能の設定に応じて下記の様な手順を経て、DNC実行画面に移ります。

処理が終了すると、終了画面が表示されます。 **戻る** を押すか [END]キーを押すと、トップメニュー画面に戻ります。



サブプログラム機能の設定で、「M98Pの展開」も「任意コードの展開」も「しない」と設定されている場合は、DNC実行画面(P.44)に直接移行する。

サブプログラム機能の設定で、「M98Pの展開」または「任意コードの展開」が「する」と設定されている場合は、リモートモードで実行ファイルを指定した場合と、ローカルモードで実行ファイルを指定した場合とでは、移行する画面が夫々で違う。

- 1 リモートモードで実行ファイルを指定した場合、リモートモードではサブプログラム機能をサポートしない。このため、「リモートモードではサブプログラムを展開しません。よろしいですか?」と警告画面を表示する。ここで **OK** を選択し、[Execute] キーを押すと、DNC実行画面(P.44)に移行する。

CANCEL を選択し、[Execute]キーを押すと、トップメニュー画面に戻る。

- 2 ローカルモードで実行ファイルを指定した場合、サブプログラム機能のチェックに関する画面に移行する。
チェック設定が「する」の場合と「しない」の場合では、移行する画面が夫々で違う。
詳細は、次ページを参照すること。

・サブプログラムの確認

サブプログラム機能の設定で、「M98Pの展開」且つ「M98Pの確認」が「する」に設定されているか、または、「任意コードの展開」且つ「任意コードの確認」が「する」に設定されている場合には、自動的にこの画面に移行します。「・・・の確認」を「する」に設定されたサブプログラムに関する確認を、自動的に実行します。

ファイルが短い等の理由で処理が早い場合には、表示が見えない場合があります。

DNC実行画面に移行する前に自動的にサブプログラムに関して、ファイルの存在チェック、グループファイルを含むネストの確認、禁止事項の確認、を実行します。

<サブプログラムの確認画面>

サブプログラム展開チェック 15:44:28

実行ファイル名 : BT-T6.NCD

チェック中ファイル名
BT-T6.NCD

中断

チェック処理を中断し、中断処理の確認画面に移行する。
OKを選択し[Execute]を押すと、トップメニュー画面に移行する。CANCELを選択し[Execute]を押すと、チェック処理を継続する。

<エラー警告画面>

サブプログラムの確認で、展開の対象となるファイルが存在しない時、グループファイルを展開の対象として指定した時、グループファイルを含むネストが8段を超えた時は、エラー警告画面が表示される。

*** 処理の確認 ***

ファイル名 00010

サブプログラム展開のファイルがありません

OK CANCEL

[Execute] [Execute]

サブプログラムの確認処理を続行するが、全てのチェックを終えた時点で、DNCを実行しないでトップメニュー画面に移行する。

サブプログラムの確認処理を中断し、トップメニュー画面に移行する。

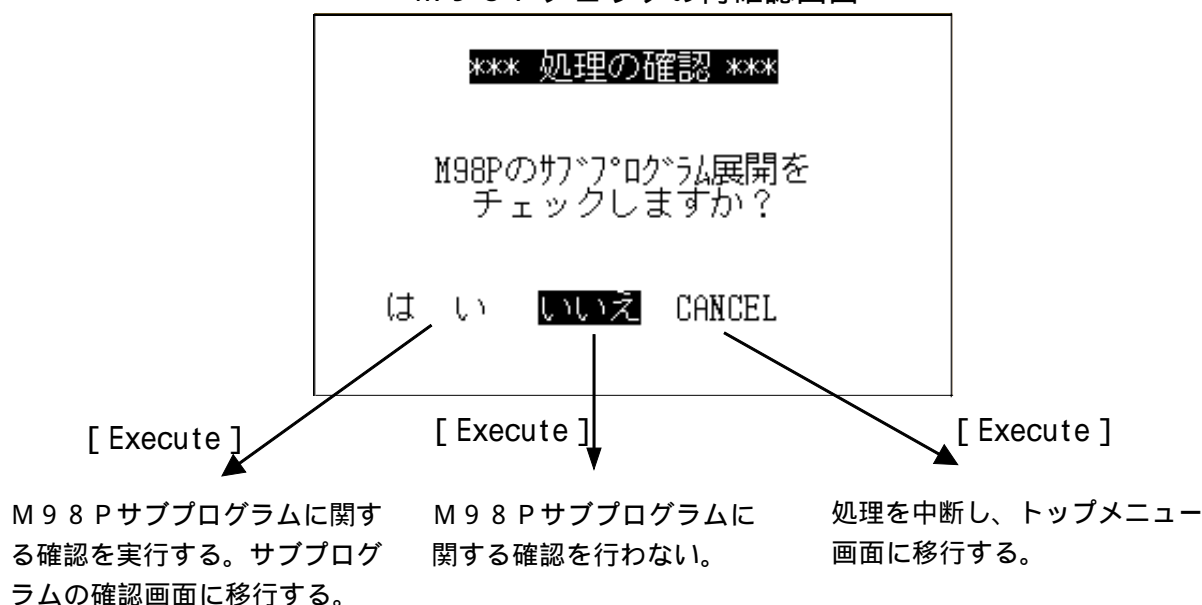
・ 確認を「しない」設定時

サブプログラム機能の設定で、「M98Pの展開」が「する」に設定され「M98Pの確認」が「しない」に設定されているか、または、「任意コードの展開」が「する」に設定され「任意コードの確認」が「しない」に設定されている場合には、自動的にこの画面に移行します。

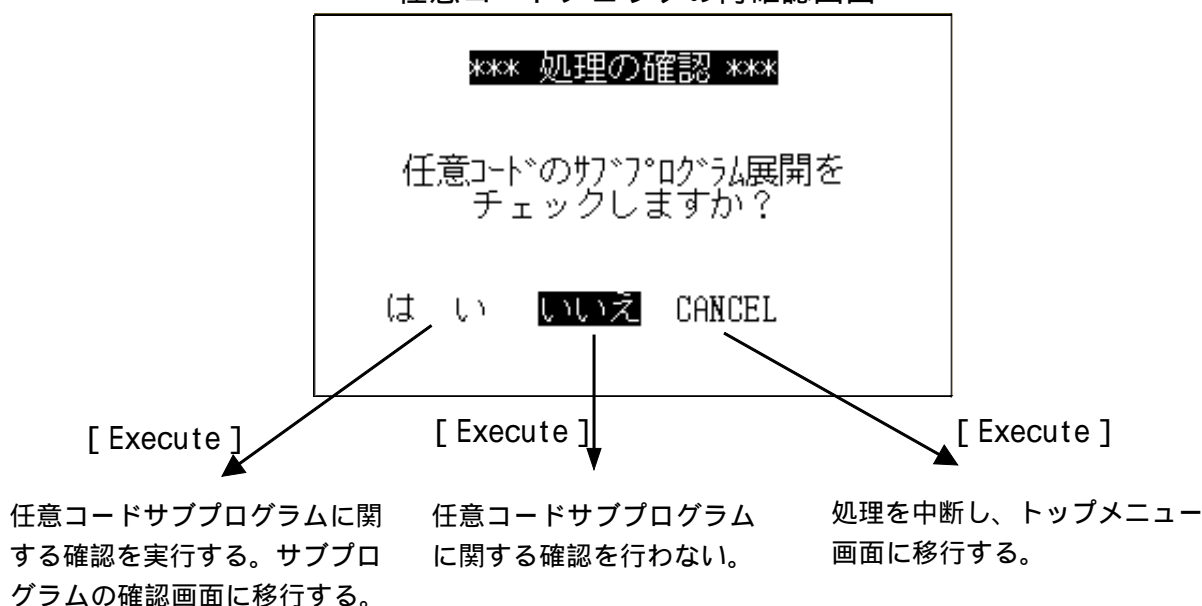
「・・・の確認」を「しない」に設定されたサブプログラムに関する画面が表示されます。

サブプログラムを展開するにも拘らず、実行前のチェックをしない設定になっているので、念のため、チェックを「しない」か「する」かを再確認します。

< M98Pチェックの再確認画面 >



< 任意コードチェックの再確認画面 >



・ D N C 実行と中断

< D N C 実行画面 >

D N C 実行		15:59:26
実行グループファイル名:		
実行ファイル名	:	BT-T6.NCD
グループ開始時刻	:	
ファイル開始時刻	:	1999/06/24 15:59:21
ファイルサイズ	:	1168364
残ファイルサイズ	:	1168364

中 断

D N C 実行中に表示され、実行中の状態を随時表示する。

処理が終了すると D N C 終了画面 (P.46) に移行する。

↓
処理を中断し、処理確認画面に移行する。

* N C 機とのハンドシェイク手順が、D C コード制御・N C 制御・ハードウェア制御に設定されている場合は、D N C 実行画面が表示されたら、ターミナル側の D N C 実行の準備は完了です。N C 機械側の開始ボタンを押すことにより、D N C を開始することができます。

* N C 機とのハンドシェイク手順が Xon/Xoff に設定されている場合は、D N C 実行を開始する以前に N C 機側の D N C 実行準備を完了しておいて下さい。

< 処理確認画面 >

*** 処理の確認 ***	
D N C 実行を中止しますか？	
OK	CANCEL

↓ [Execute]

処理を中断し、警告画面に移行する。

↓ [Execute]

処理を継続し、D N C 実行画面が表示される。

< 警告画面 >

***** 警告 *****

NC機をリセットして下さい。

[Execute]キーを押して下さい。

↓ [Execute]

DNC中断画面に移行する。
NC機械をリセットすること。

< DNC中断画面 >

処理中断 15:55:51

実行グループファイル名:

実行ファイル名 : BT-T6.NCD

グループ開始時刻 :

ファイル開始時刻 : 1999/06/24 15:55:20

ファイルサイズ : 1168364

残ファイルサイズ : 1147884(98%)

戻る

↓
トップメニュー画面に移行する。

注意

中断 は、NC機械をリセットする場合のみ使用して下さい。

. DNCの終了

通信方法設定にプロトコルBが設定されている場合は、このタイトルが表示される。

NC機械は未だ加工中であっても、本装置は加工データの送信を終了した事を意味する。

通信方法設定にプロトコルAが設定されている場合は、「加工終了」とタイトル表示される。

下記の注意を参照の事。

< DNC終了画面 >

データ送信終了		16:17:49
実行グループファイル名:		
実行ファイル名	:	BT-T6.NCD
グループ開始時刻	:	
ファイル開始時刻	:	1999/06/24 16:01:22
ファイルサイズ	:	1168364
残ファイルサイズ	:	0(0%)
戻る		

↑
↓
トップメニュー画面に移行する。

注意： 通信方法設定にプロトコルAが設定されている場合

通信方法設定にプロトコルAが設定されている場合、DNC終了画面では「加工終了」とタイトル表示されます。これは、本装置がNC機械の加工に必要な総てのデータを送信終了した後、NC機械側の加工終了時に「リセット」を示す信号が、NC機械側から送られて来る事を利用して、表示するものです。

従って、この信号が送られてこない場合は、「加工終了」が表示されません。

NC機械の加工終了以前に手動でNC機械側を「リセット」した場合、通常は「NCの準備が出来ていません。」等の警告が表示され、本装置はDNC実行を強制的に中断します。但し、本装置がNC機械の加工に必要な総てのデータを送信終了した後、NC機械の加工終了以前に手動でNC機械側を「リセット」した場合、NC機械側が加工未終了にも拘らず、本装置は「加工終了」と表示する事があります。

・ D N C 処理の対象ファイル

D N C 処理の対象となるのは、ローカル側およびリモート側の N C ファイルとグループファイルです。それぞれ、処理の方法が違います。

- (1) リモート側 N C ファイルを指定した場合
リモートファイルをローカル側にダウンロードし、設定されているデータ変換方法に従い N C データを送信します。(設定方法は P14 参照)
ダウンロードされたリモートファイルは、初期設定の条件に従い、保存 / 削除の処理を行います。(設定方法は P33 参照)
- (2) リモート側グループファイルを指定した場合
グループファイルの構成によって異なります。
N C データの送信は、設定されているデータ変換方法に従います。(設定方法は P13 参照)
ダウンロードされたリモートファイルは、初期設定の条件に従い、保存 / 削除の処理を行います。(設定方法は P33 参照)

**リモート側グループファイルのパスの処理に関し、制限事項があります。
P 4 0 を必ずお読みいただき、よくご理解の上で御利用下さい。**

N C ファイルのみ記述されているグループファイル

A . GRP
1 . NCD
2 . NCD
3 . NCD

すべての N C ファイルがあるかをチェックし、一括してダウンロードし、D N C 処理を行う。
一つでも存在しなかった場合、処理は行われぬ。

[処理順番]

1 . NCD , 2 . NCD , 3 . NCD

N C ファイルとグループファイルが記述されているグループファイル

A . GRP
1 . NCD
2 . NCD
3 . NCD
B . GRP
4 . NCD

すべての N C ファイルがあるかをチェックし、一括してダウンロードし、D N C 処理を行う。
一つでも存在しなかった場合、処理は行われぬ。
(基本的に N C ファイルのみで構成されるグループファイルと同一処理。)

[処理順番]

1 . NCD , 2 . NCD , 3 . NCD , B - 1 . NCD , B - 2 . NCD , 4 . NCD

B . GRP
B - 1 . NCD
B - 2 . NCD

NEXT 機能付きファイル、又は **NEXT 機能付き**グループファイルが記述されているファイルを選択した時。

NEXT 機能とは

D N C 実行時のファイルの処理方法の一つで、通常のファイルまたはグループファイルは関連する N C ファイルを一括してローカルにダウンロードして D N C 処理を行います。NEXT 機能付きファイルまたは NEXT 機能付きグループファイルの時は、NEXT キーワード付きで書かれているファイル単位で N C ファイルをダウンロードし D N C を行う方式です。詳細は下記に示します。

A . GRP

```
1.NCD
NEXT 2.NCD
3.NCD
NEXT B.GRP
4.NCD
```

A.GRP 中の 1.NCD, 3.NCD があるかをチェックし、すべて存在すれば、2.NCD、B.GRP や C.GRP に記述されている N C ファイルが存在するかは確認せずに、1.NCD, 3.NCD をダウンロードし、順に D N C 処理を行う。

1.NCD の処理が終了したら、2.NCD があるかをチェックし、存在すればダウンロードして D N C 処理を行う。次に 3.NCD を処理する。3.NCD の処理が終了すると、B.GRP 中の B-1.NCD, B-2.NCD があるかをチェックし、A.GRP の時と同様に処理する。

B-2.NCD の処理まで終了したら、C.GRP の処理を前のグループと同様に行う。

[処理順番]

1.NCD, 2.NCD, 3.NCD, B-1.NCD, B-2.NCD, C-1.NCD, C-2.NCD

4.NCD, B-3.NCD は無視され、処理されない。

B . GRP

```
B-1.NCD
B-2.NCD
NEXT C.GRP
B-3.NCD
```

C . GRP

```
C-1.NCD
C-2.NCD
```

グループファイル中に、NEXT キーワード付きのグループファイルと NEXT キーワード無しのグループファイルは混在できません。

NEXT キーワード付きのファイルについては、この制限がありません。

```
1.NCD
B.GRP
C.GRP
```

[OK]

```
1.NCD
B.GRP
NEXT C.GRP
```

[NG]

```
1.NCD
NEXT B.GRP
```

[OK]

グループファイルの階層の深さは、ベースとなるグループファイルも含めて 8 階層まで書くことができます。

- (3) ローカル側NCファイルを指定した場合
設定されているデータ変換方法に従いNCファイルを送信します。(設定方法はP14 参照)
- (4) ローカル側グループファイルを指定した場合
グループファイルの構成によって異なります。
NCデータの送信は、設定されているデータ変換方法に従います。(設定方法はP14 参照)

NCファイルのみ記述されているグループファイル

A.GRP	
1.NCD	
2.NCD	
3.NCD	

すべてのNCファイルがあるかをチェックし、DNC処理を行う。

一つでも存在しなかった場合、処理は行われない。

[処理順番]

1.NCD, 2.NCD, 3.NCD

NCファイルとグループファイルが記述されているグループファイル

A.GRP	
1.NCD	
2.NCD	
3.NCD	
B.GRP	
4.NCD	

すべてのNCファイルがあるかをチェックし、DNC処理を行う。

一つでも存在しなかった場合、処理は行われない。

(基本的にNCファイルのみで構成されるグループファイルと同一処理。)

[処理順番]

1.NCD, 2.NCD, 3.NCD, B-1.NCD, B-2.NCD, 4.NCD

B.GRP	
B-1.NCD	
B-2.NCD	

NEXT 機能付きファイル、又は **NEXT 機能付き**グループファイルが記述されているファイルを選択した時。

```
A.GRP
1.NCD
NEXT 2.NCD
3.NCD
NEXT B.GRP
4.NCD
```

```
B.GRP
B-1.NCD
B-2.NCD
NEXT C.GRP
B-3.NCD
```

```
C.GRP
C-1.NCD
C-2.NCD
```

A.GRP 中の 1.NCD,3.NCD があるかをチェックし、すべて存在すれば、2.NCD、B.GRP や C.GRP に記述されている N C ファイルが存在するかは確認せずに、順に D N C 処理を行う。

1.NCD の処理が終了したら、2.NCD があるかをチェックし、存在すれば D N C 処理を行う。

次に 3.NCD を処理する。3.NCD の処理が終了すると、B.GRP 中の B-1.NCD, B-2.NCD があるかをチェックし、A.GRP の時と同様に処理する。

B-2.NCD の処理まで終了したら、C.GRP の処理を前のグループと同様に行う。

[処理順番]

1.NCD, 2.NCD, 3.NCD, B-1.NCD, B-2.NCD, C-1.NCD, C-2.NCD

4.NCD, B-3.NCD は無視され、処理されない。

グループファイル中に、NEXT キーワード付きのグループファイルと NEXT キーワード無しのグループファイルは混在できません。

NEXT キーワード付きのファイルについては、この制限がありません。

```
1.NCD
B.GRP
C.GRP
```

[OK]

```
1.NCD
B.GRP
NEXT C.GRP
```

[NG]

```
1.NCD
NEXT B.GRP
```

[OK]

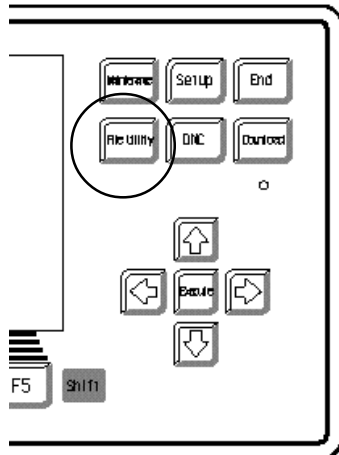
グループファイルの階層の深さは、ベースとなるグループファイルも含めて 8 階層まで書くことができます。

6 - 5 . ファイルユーティリティ

トップメニュー画面が表示されている状態で、[File Utility] キーを押すとファイルユーティリティ画面が表示され、NCファイルやディレクトリのコピーや削除が行えます。

処理対象はローカル側のNCファイルおよびディレクトリのみです。

次頁 前頁 詳細 ソート はトップメニュー画面と同様の表示動作です。



<ファイルユーティリティ画面>

ディレクトリ	ファイル名	サイズ
ファイルユーティリティ 12:26:51		
: D:\DNC\FOLDER1		
	<DIR>	
	BT-T2.NCD	54462
	BT-T1.NCD	106972
	BT-T3.NCD	55739
	BT-T4.NCD	102503
	BT-T5.NCD	123057
	BT-T6.NCD	1168364
	6.NCD	17091

↑ [Shift]

ディレクトリ	ファイル名	サイズ
ファイルユーティリティ 12:24:49		
D:\DNC\FOLDER1		
	<DIR>	
	T2.NCD	54462
	T1.NCD	106972
	T3.NCD	55739
	T4.NCD	102503
	BT-T5.NCD	123057
	BT-T6.NCD	1168364
	6.NCD	17091

↑

ファイルを選択して下さい。

次頁 前頁 詳細 ソート 選択

処理ボタンを押して下さい。

コピー 移動 削除 UPLOAD 確認有

(1) 対象ファイル/ディレクトリの選択

選択 を押すと選択されているファイル/ディレクトリを処理対象にすることができます。
処理対象に選択されているものには、左側に選択マーク（*）が表示されます。
再度 **選択** を押せば、解除されます。
複数のファイル/ディレクトリを選択できますが、他のディレクトリにまたがった選択は
できません。
[End] キーを押すとトップメニュー画面に戻ります。
処理対象ファイル/ディレクトリを選択後、コピーや移動等の処理を行います。

ディレクトリ ファイル名	ファイル名	サイズ
	..	<DIR>
*	BT-T2.NCD	54462
*	BT-T1.NCD	106972
*	BT-T3.NCD	55739
	BT-T4.NCD	102503
	BT-T5.NCD	123057
	BT-T6.NCD	1168364
	6.NCD	17091

ファイルを選択して下さい。

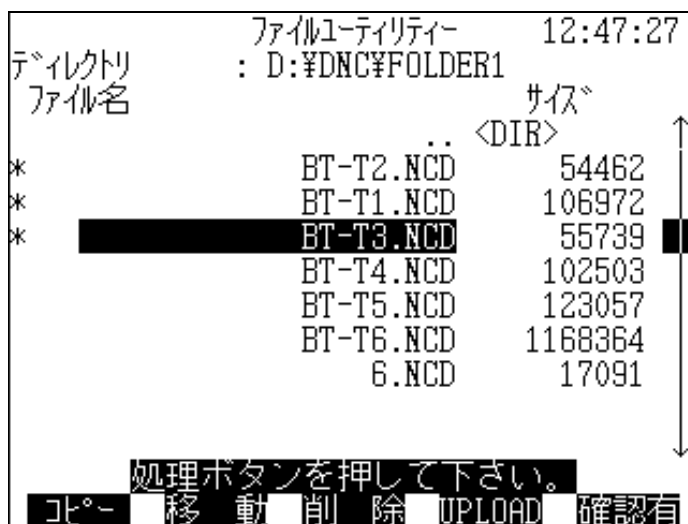
次 頁 前 頁 詳 細 ソート 選 択

(2) コピー / 移動処理

コピー **移動** を押すと処理対象ファイル / ディレクトリを指定したディレクトリに同名でコピー / 移動します。

同名のファイルが行先ディレクトリにあった場合は、基本的に上書きです。(詳細は「(5) 確認有りの処理」参照)

また、ディレクトリをコピー / 移動する場合は、処理対象ディレクトリ内の全データファイルを、指定した行先ディレクトリに同名でコピー / 移動します。



コピー / 移動するファイルを選択

<コピー先設定画面>



コピー先ディレクトリ : ディレクトリを選択し、[Execute]キーを押すことにより、変更する

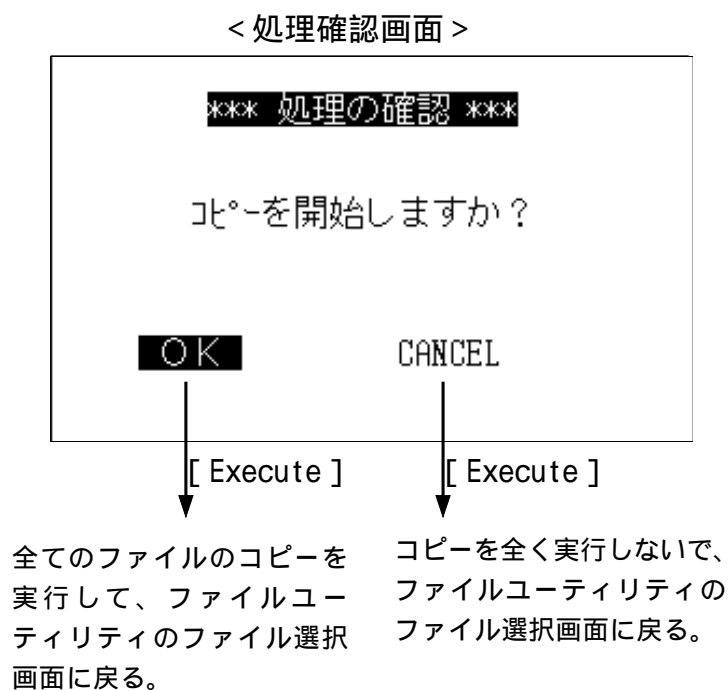
現在 (コピー前) のコピー先ディレクトリ内のファイル及びディレクトリ

コピー / 移動を行わずにファイルユーティリティのファイル選択画面に戻る。

[End] キーを押しても同様。

コピー / 移動の処理確認画面に移る。

一括処理確認画面



処理の確認（P57 参照）が「確認無し」の設定の時、コピーだけでなく、移動、削除、アップロードの実行に際して、必ずこの「処理の確認」画面が表示されます。

「OK」と「CANCEL」は、矢印キー[]、[]で選択する。

「OK」を選択し [Execute] を押すと、処理中の機能を実行しファイルユーティリティのファイル選択画面に戻る。

「CANCEL」を選択し [Execute] を押すと、処理中の機能を実行しないでファイルユーティリティのファイル選択画面に戻る。

(3) 削除処理

削除 を押すと処理対象ファイル/ディレクトリを削除します。

処理対象がファイルの場合、対象ファイルを削除します。

処理対象がディレクトリの場合は、処理対象ディレクトリがシステム固定ディレクトリ (FOLDER1 ~ FOLDER10) の場合とそれ以外の場合で処理が異なります。

システム固定ディレクトリの場合は、ディレクトリ内のデフォルトグループファイル以外をすべて削除し、デフォルトグループファイルは、中を空にします。ただし、ディレクトリ自身は削除されません。

システム固定ディレクトリ以外の場合は、ディレクトリ内のすべてを削除し、ディレクトリ自身も削除します。

ファイルユーティリティ 13:11:28
ディレクトリ : D:\¥DNC\FOLDER2
ファイル名 サイズ
.. <DIR>
BT-T1.NCD 106972
BT-T3.NCD 55739
BT-T4.NCD 102503
BT-T5.NCD 123057
* BT-T6.NCD 1168364
* 6.NCD 17091
* **BT-T2.NCD** 54462

削除するファイルを選択

削除を行わずに、トップメニュー画面に戻る。

[End]

処理ボタンを押して下さい。

コピー 移動 削除 UPLOAD 確認有

処理の確認画面で「OK」を [Execute] する。

ファイルユーティリティ 14:13:11
ディレクトリ : D:\¥DNC\FOLDER2
ファイル名 サイズ
.. <DIR>
BT-T1.NCD 106972
BT-T3.NCD 55739
BT-T4.NCD 102503
BT-T5.NCD 123057

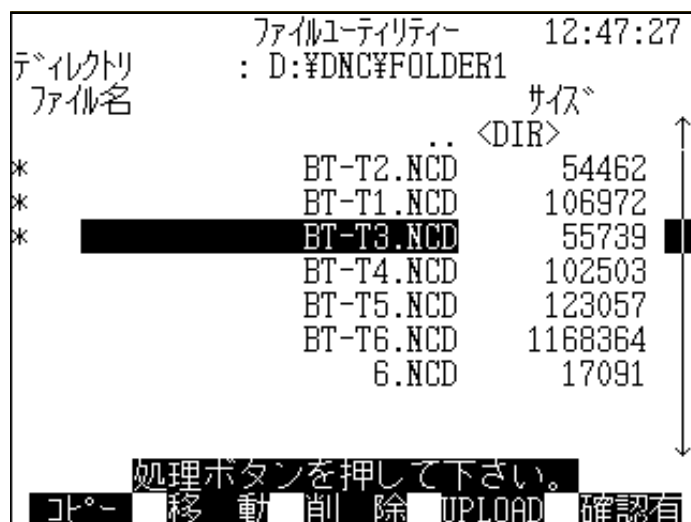
ファイルを選択して下さい。

次頁 前頁 詳細 ソート 選択

(4) アップロード処理

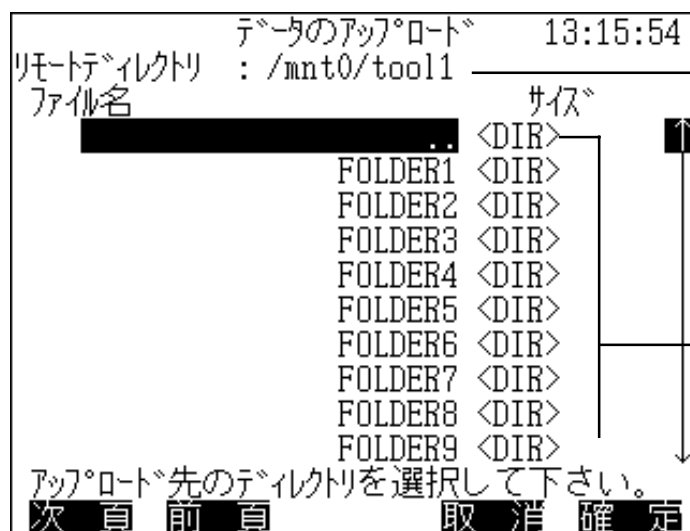
UPLOAD を押すと処理対象ファイル/ディレクトリを指定したホストにアップロードします。同名のファイルがあった場合は、基本的には上書きです。(詳細は「(5) 確認有りの処理」参照)

ホスト側のディスク容量及びパーミッションは、チェックしませんので、アップロードできない場合があります。



アップロードするファイルを選択

<アップロード先設定画面>



アップロード先ディレクトリ:
ディレクトリを選択し、
[Execute]キーを押すことにより、変更する。

現在(アップロード前)のアップロード先ディレクトリ内のファイル及びディレクトリ

アップロードを行わずにファイルユーティリティのファイル選択画面に戻る。

[End]キーを押しても同様。

アップロードの処理確認画面に移る。。

(5) 処理の確認

確認有 確認無 を押すとトグルの切り替えをし、処理の確認を行うか否かを設定できます。
(デフォルトは確認無し)

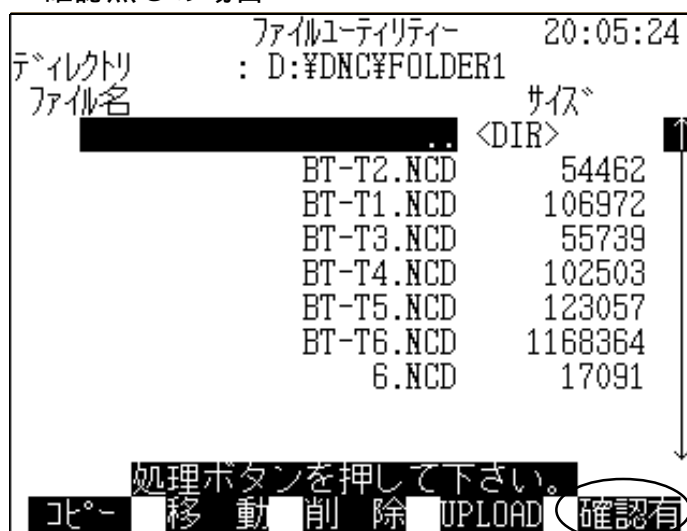
確認有りの設定にすると、以下のような場合に個別処理確認画面が表示されます。

- ・コピー / 移動時に、行先ディレクトリに同名ファイルが存在する場合・・・上書き確認
- ・削除する場合・・・全ファイルに対して削除確認
- ・アップロード時に、行先ディレクトリに同名ファイルが存在する場合・・・上書き確認

< 確認有りの場合 >

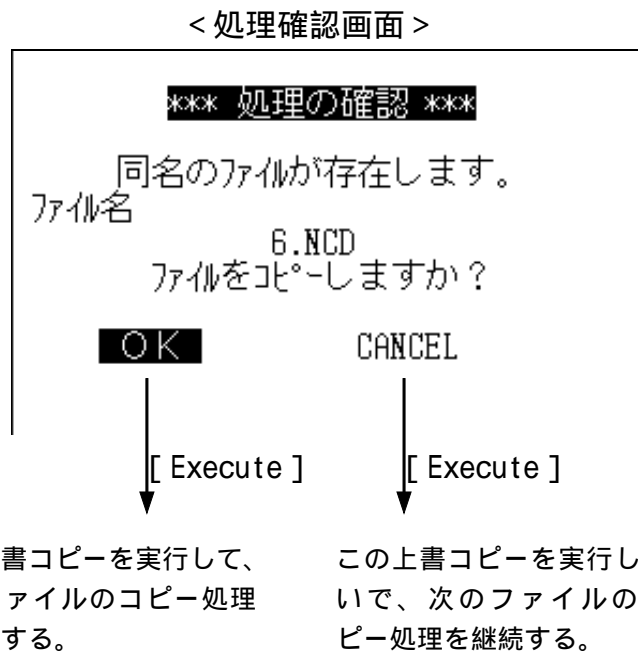


< 確認無しの場合 >



確認無しの設定にすると、各々の機能を「確定」キーを押して実行しようとした時に、一括処理確認画面 (P54 参照) が表示されます。

個別処理確認画面



処理の確認（P57 参照）が「確認有り」の設定の時、以下のような場合に確認画面が表示されます。

- ・ コピー / 移動時に、行先ディレクトリに同名ファイルが存在する場合
- ・ 削除する場合・・・全ファイルに対して削除確認
- ・ アップロード時に、行先ディレクトリに同名ファイルが存在する場合

「OK」と「CANCEL」は、矢印キー[]、[]で選択する。

「OK」を選択し [Execute] を押すと、この処理を実行し、次の処理を継続する。
全ての処理が終了すると、ファイルユーティリティのファイル選択画面に戻る。

「CANCEL」を選択し [Execute] を押すと、この処理を実行せず、次の処理を継続する。
全ての処理が終了すると、ファイルユーティリティのファイル選択画面に戻る。

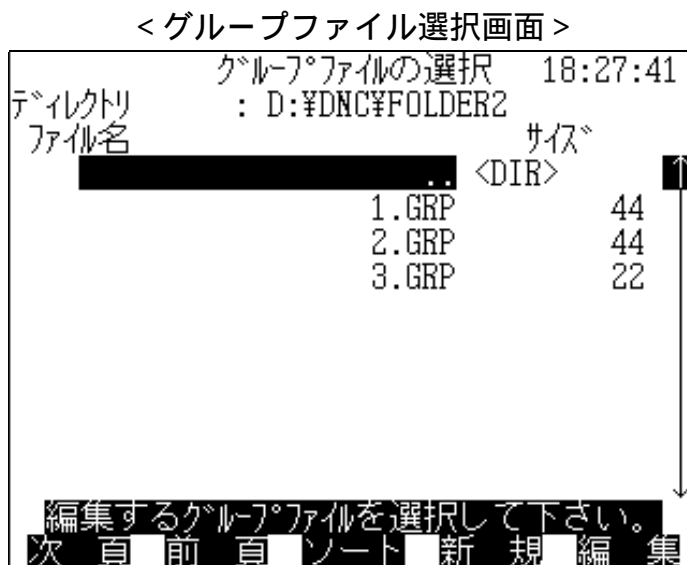
6 - 6 . グループファイル編集

トップメニュー画面が表示されている状態で、**編集** を押すとグループファイル選択画面が表示されます。

ローカル側のグループファイルを対象に編集を行い、表示はグループファイル (*.GRP) とディレクトリのみになります。

ローカル表示中のみ有効でリモートへの切替はできません。

次頁 **前頁** **ソート** はトップメニュー画面と同様の表示動作です。



(1) 新規作成

新規 を押すと表示中のディレクトリの下にグループファイルを新規作成します。

まず、文字入力画面 (P80 参照) でグループファイル名 (**拡張子を除いて 8 文字以内を指定**) を設定すると、グループファイル編集画面に移行します。

[End] キーを押すとトップメニュー画面に戻ります。

グループ編集画面にて、処理するデータファイルやグループファイルを登録や編集をします。
(操作内容、方法は編集時と同じです。)

(2) 編集

編集 を押すとグループファイル編集画面に移行し選択したグループファイルの内容を表示し、編集します。NEXT 機能指定のグループファイルには左側に「*」が表示されます。

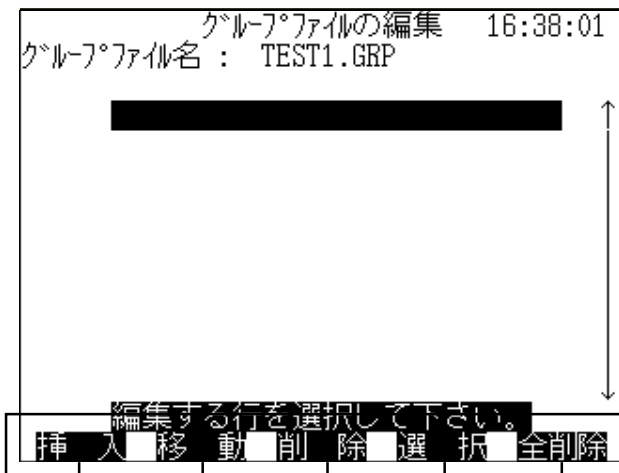
[End] キーを押すとトップメニュー画面に戻ります。

グループ編集画面にて、処理するデータファイルやグループファイルを登録や編集をします。
(操作内容、方法は新規時と同じです。)



グループ選択を行わずに、トップメニュー画面に戻る。

<グループファイル編集画面>



[Shift]

編集がすべて取り消され、グループファイル選択画面に戻る。
 [End] キーを押しても同様。

編集をグループファイルに登録し、グループファイル選択画面に戻る。

挿入

カーソルの上(前)にファイルの挿入が可能になり、挿入ファイル選択画面へと移行します。挿入ファイル選択画面で挿入するファイルを選択し、**選択** を押すと選択順が表示されます。

複数のファイルを選択できますが、他のディレクトリにまたがった選択はできません。選択されたファイルが対象になるグループファイルと別のディレクトリに存在する場合、ファイルのコピーも行われます。

<挿入ファイル選択画面>

グループファイルへ挿入		19:14:50
ディレクトリ	: D:\DNC\FOLDER2	
ファイル名	サイズ	
	.. <DIR>	
2	BT-T1.NCD	106972
1	BT-T3.NCD	55739
	BT-T4.NCD	102503
3	BT-T5.NCD	123057
	1.GRP	56
4	2.GRP	44
	3.GRP	22

挿入するファイルを選択して下さい。
次 頁 前 頁 選 択 取 消 確 定

グループファイルに登録して、グループファイル選択画面に戻る。

挿入がすべて取り消され、グループファイル選択画面に戻る。

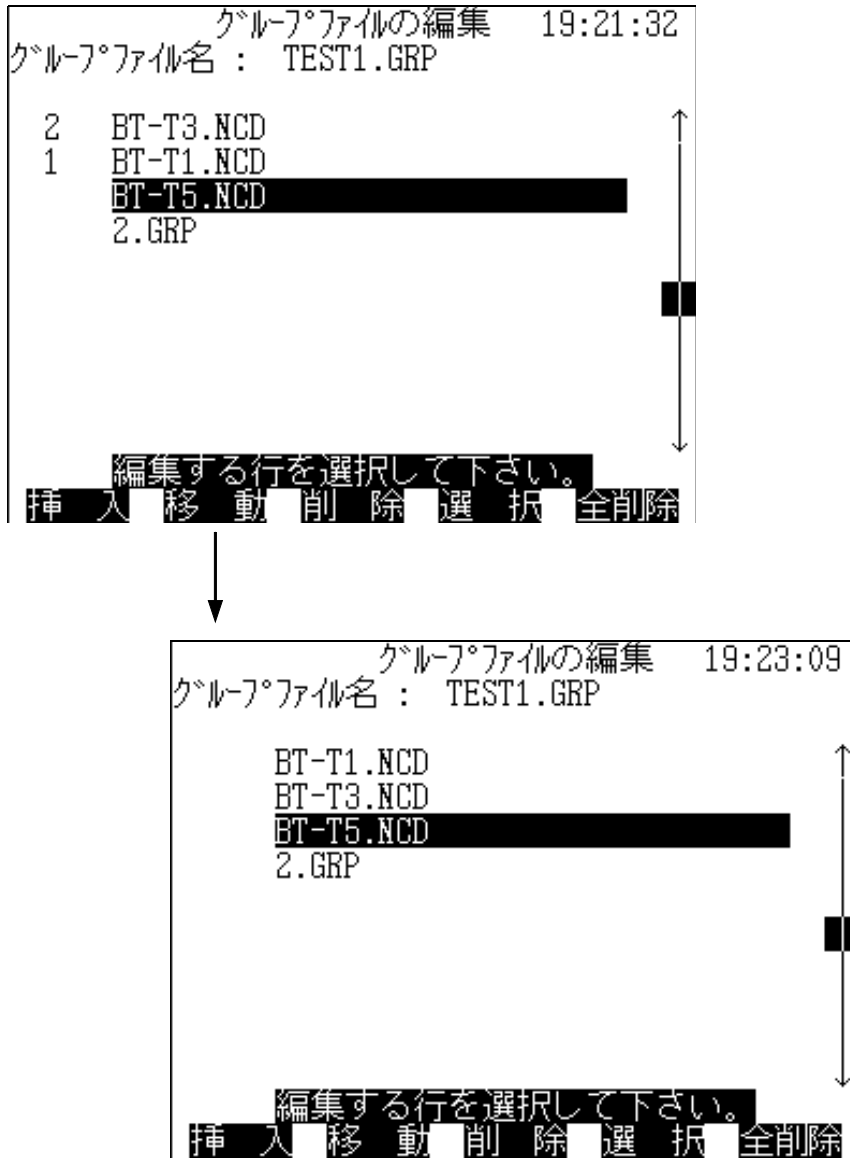
[End] キーを押しても同様。

グループファイルの編集		19:17:09
グループファイル名 : TEST1.GRP		
BT-T3.NCD		↑
BT-T1.NCD		
BT-T5.NCD		
2.GRP		

編集する行を選択して下さい。
挿 入 移 動 削 除 選 択 全 削 除

移動

選択されているファイルが、選択順に、カーソルの上（前）に移動します。



削除

選択されているファイルをグループファイルリストから削除します。

グループファイルの編集 19:21:32
グループファイル名 : TEST1.GRP

2	BT-T3.NCD
1	BT-T1.NCD
	BT-T5.NCD
	2.GRP

編集する行を選択して下さい。
挿入 移動 削除 選択 全削除

*** 処理の確認 ***

選択項目を削除しますか？

OK CANCEL

処理を行わず、グループファイル編集画面に戻る。

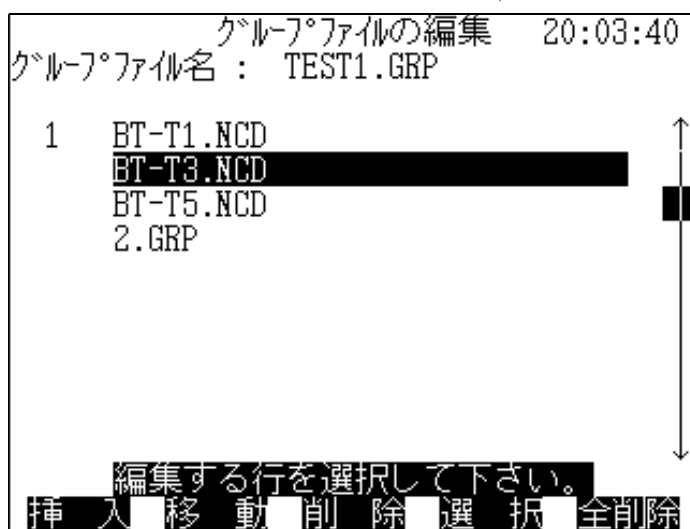
グループファイルの編集 21:21:09
グループファイル名 : TEST1.GRP

	BT-T5.NCD
	2.GRP

編集する行を選択して下さい。
挿入 移動 削除 選択 全削除

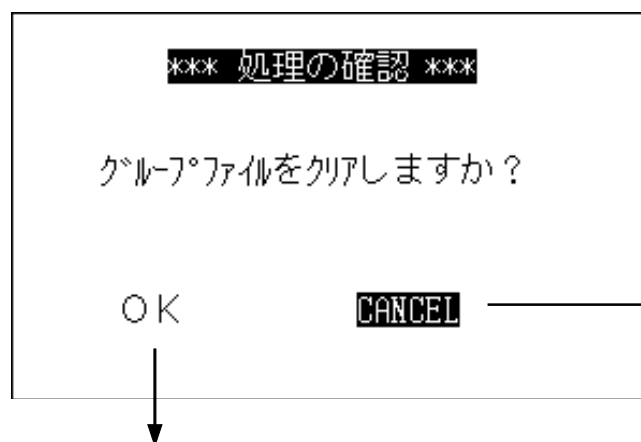
選択

カーソルの位置にあるファイルの選択状態をトグルで変更し、選択通番が左に表示されます。



全削除

グループファイルに記述されているファイルがすべてグループファイルリストから削除されます。

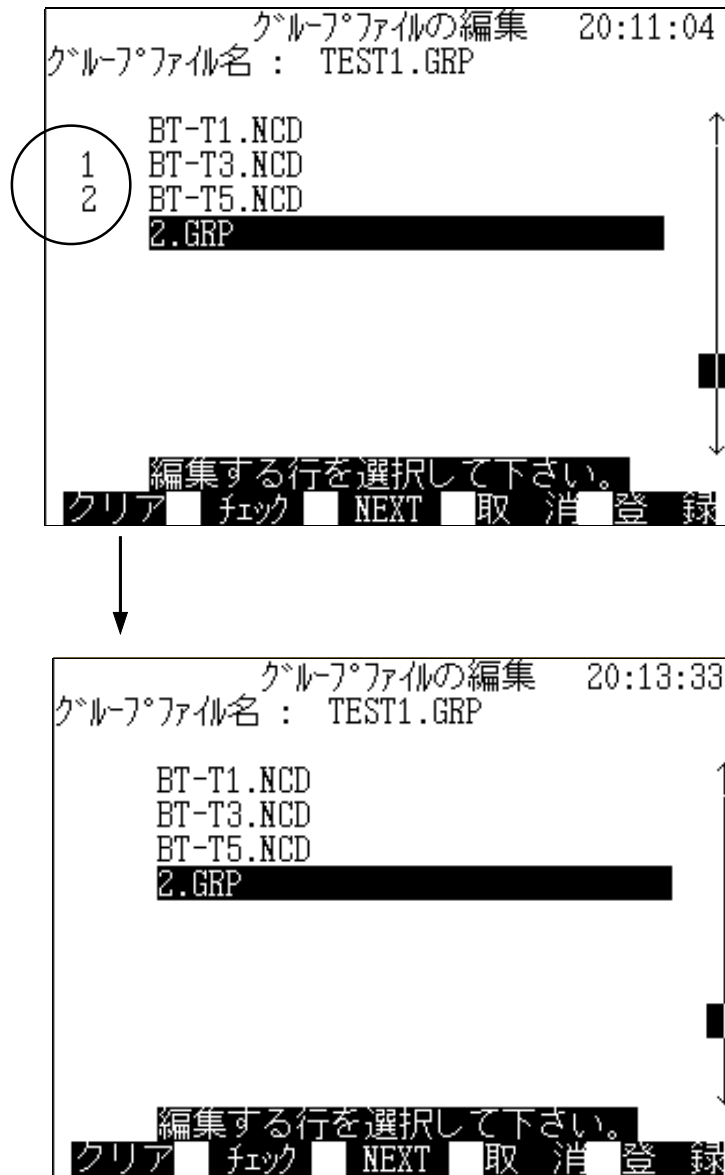


処理を行わず、グループファイル編集画面に戻る。

すべて削除され、グループファイル編集画面に戻る。

クリア

選択状態がすべてクリアされます。



チェック

グループファイルに記述されているすべてのファイルの存在をチェックします。



すべてのファイルが存
在している場合

いずれかのファイルが
存在していない場合

*** 処理の確認 ***

グループファイル内のファイルは存在します

[Execute]キーを押して下さい。

*** 警告 ***

ファイルが存在しません。

[Execute]キーを押して下さい。

NEXT

グループファイル内にあるグループファイルのNEXT機能（P48参照）指定状態をトグルで変更します。



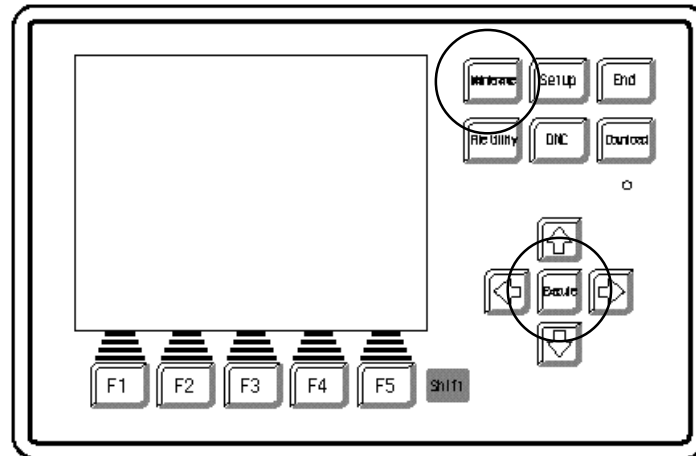
NEXT 機能とは

DNC実行時のファイルの処理方法の一つで、通常のファイルまたはグループファイルは関連するNCファイルを一括してローカルにダウンロードしてDNC処理を行います。NEXT機能付きファイルまたはNEXT機能付きグループファイルの時は、NEXTキーワード付きで書かれているファイル単位でNCファイルをダウンロードしDNCを行う方式です。詳細はP48を参照して下さい。

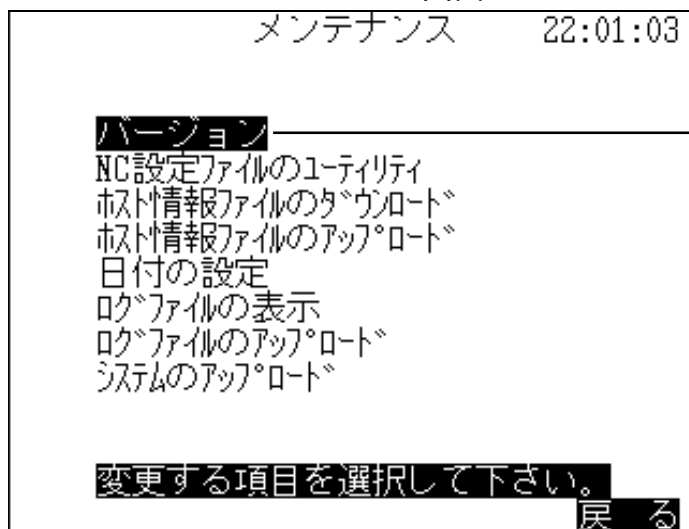
6 - 7 . メンテナンス

トップメニュー画面が表示されている状態で、[Maintenance] キーを押すとメンテナンス画面が表示されます。

設定項目を選択し、[Execute] キーを押すとそれぞれの設定画面へと移行します。



< メンテナンス画面 >



バージョン にカーソルを移動し、[Execute] キーを押すと本装置のバージョンが表示される。

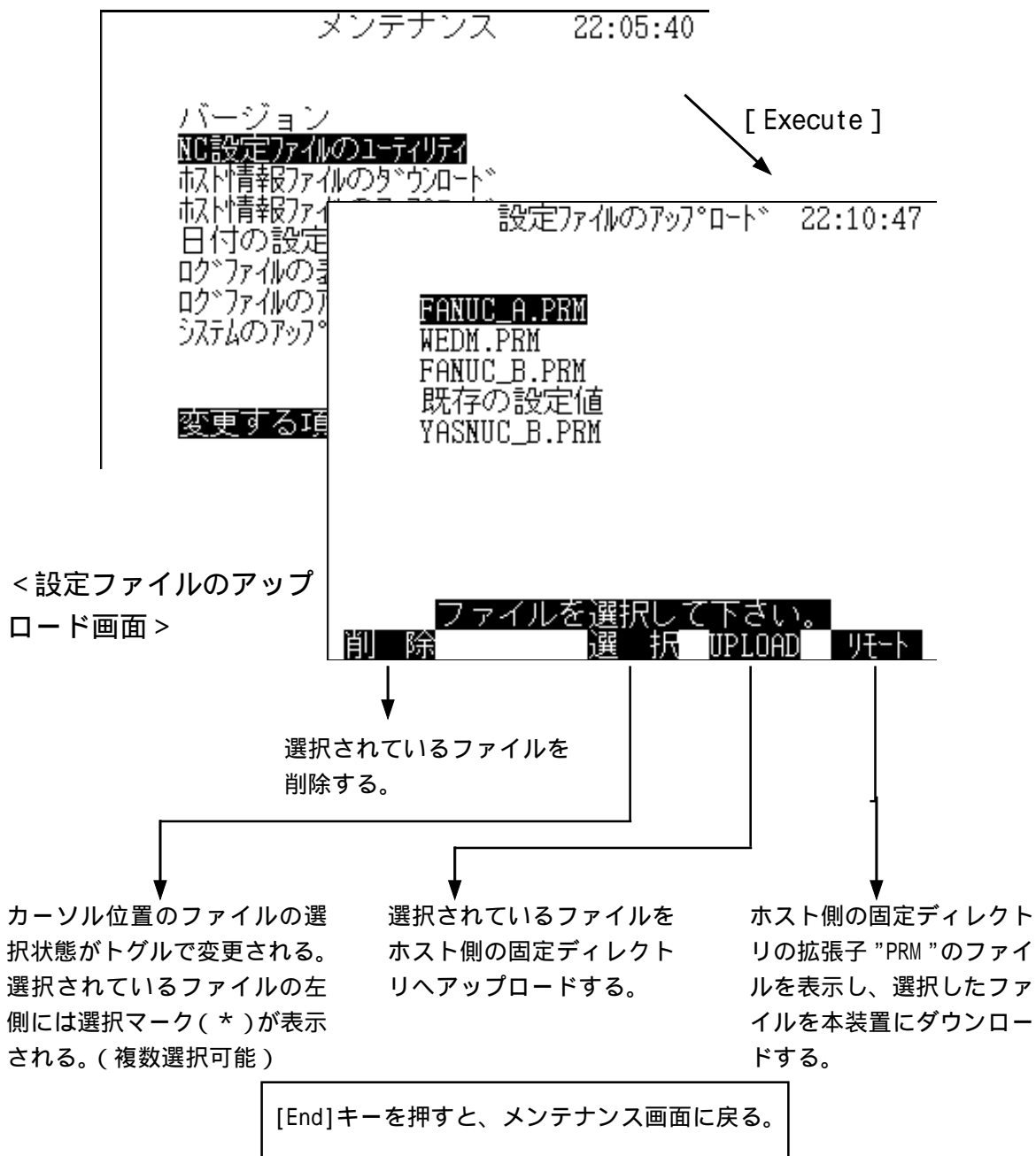
(1) NC 設定ファイルのユーティリティ

ホスト側の固定ディレクトリ ([ホームディレクトリ] / N1081) へ、NC 設定ファイルをアップロードします。

また、ホスト側の固定ディレクトリ ([ホームディレクトリ] / N1081) にある拡張子 “ PRM ” のファイルを表示し、本装置にダウンロードします。

不要な NC 設定ファイルを削除できます。

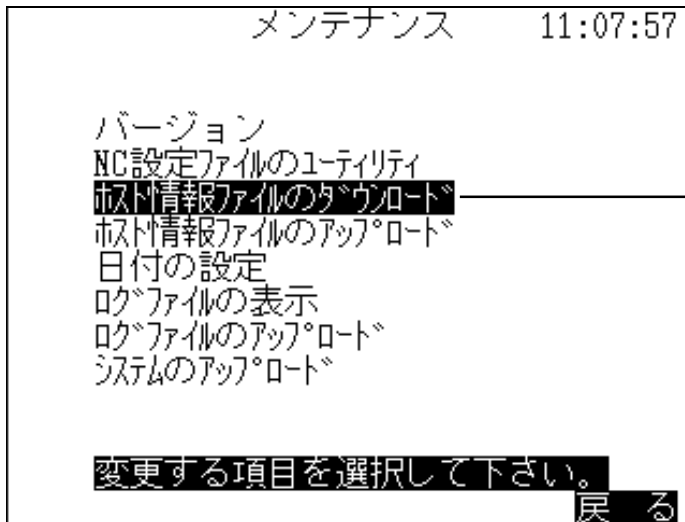
(本装置では、NC 設定ファイルを五つまで表示できます。不要な設定ファイルが残っていると、必要な設定ファイルが表示されません。)



アップロードされたファイルのファイル名等に関しては、P75 を参照して下さい。

(2) ホスト情報のダウンロード

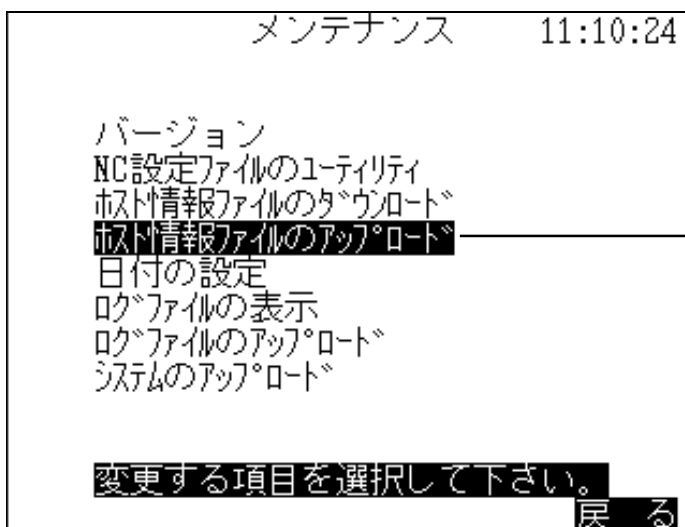
ホスト側の固定ディレクトリ（[ホームディレクトリ] / N1081）にある "XHOSTINF.DEF" ファイルを本装置にダウンロードし、本装置の "XHOSTINF.DEF" ファイルに上書します。
"XHOSTINF.DEF" ファイルは、ホスト情報を保存しているファイルです。



ホスト情報ファイルのダウンロード にカーソルを移動し、[Execute] キーを押すと実行確認画面が表示される。
[OK]を選択して[Execute]キーを押すと、ダウンロードを実行し、メンテナンス画面に戻る。
[CANCEL]を選択して[Execute]キーを押すと、処理を実行せずメンテナンス画面に戻る。

(3) ホスト情報のアップロード

本装置にある "XHOSTINF.DEF" ファイルをホスト側の固定ディレクトリ（[ホームディレクトリ] / N1081）へアップロードします。
ホスト側の "XHOSTINF.DEF" ファイルへは上書きします。
"XHOSTINF.DEF" ファイルは、ホスト情報を保存しているファイルです。

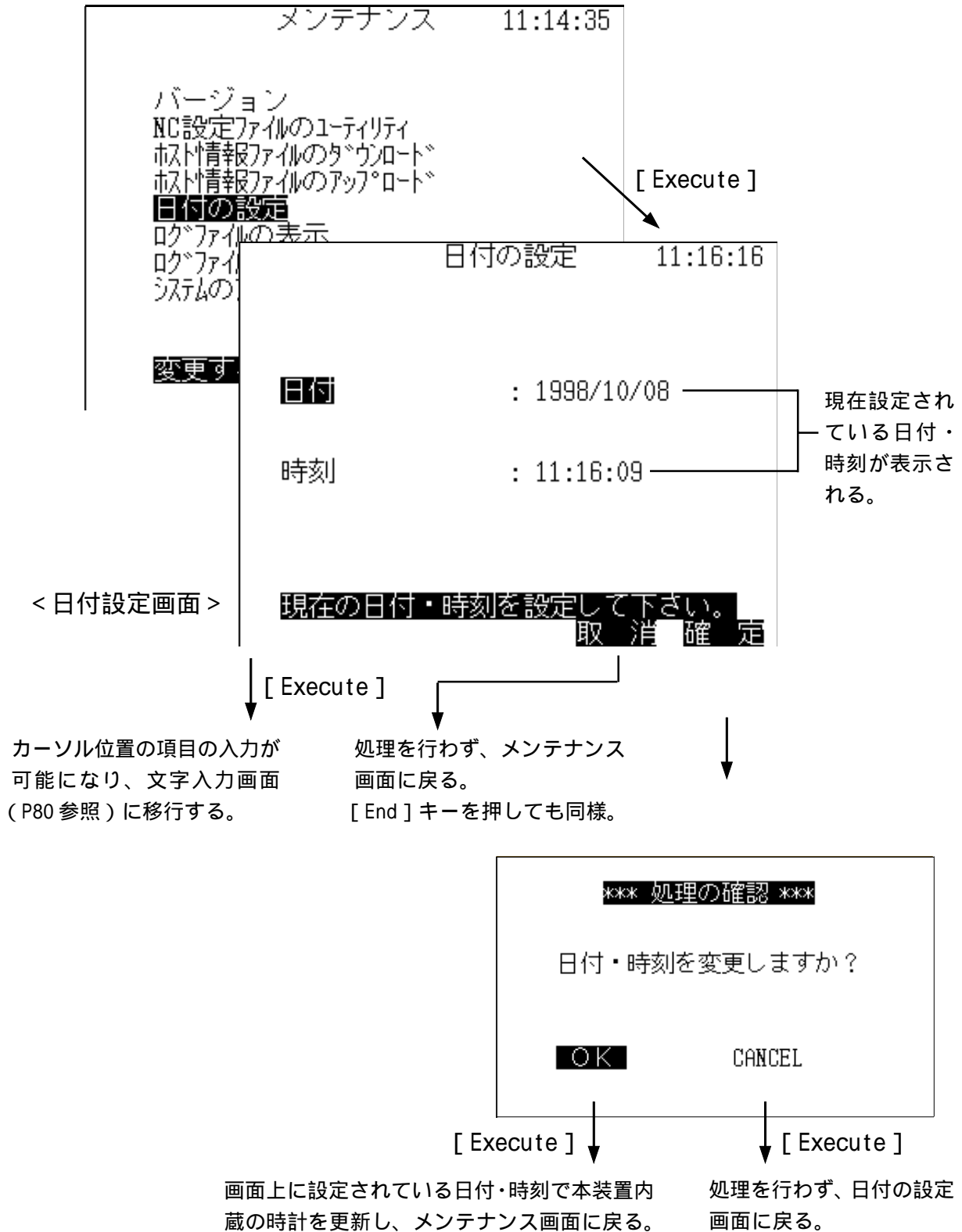


ホスト情報ファイルのアップロード にカーソルを移動し、[Execute] キーを押すと実行確認画面が表示される。
[OK]を選択して[Execute]キーを押すと、アップロードを実行し、メンテナンス画面に戻る。
[CANCEL]を選択して[Execute]キーを押すと、処理を実行せずメンテナンス画面に戻る。

(4) 日付の設定

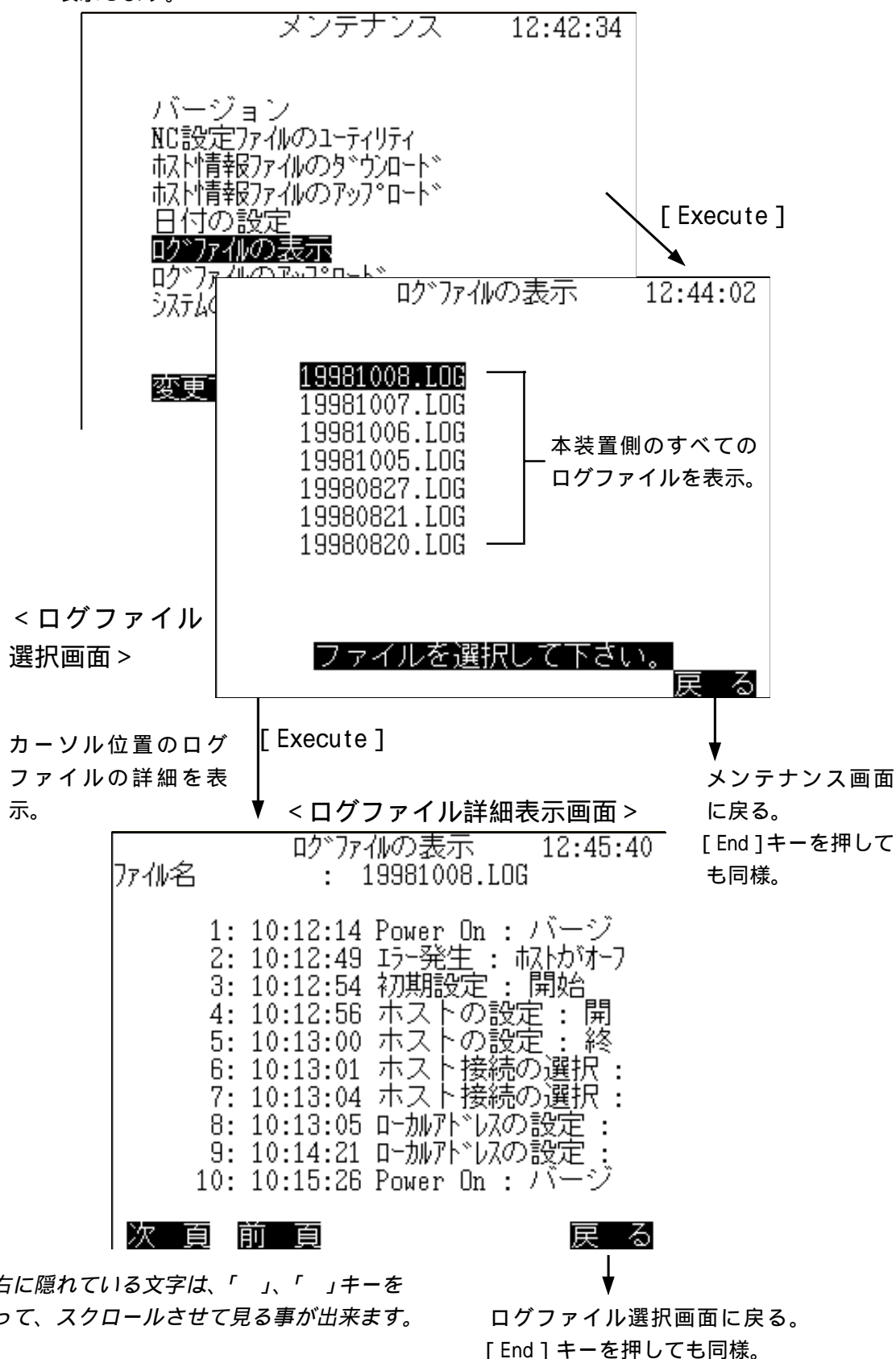
日付、時刻を設定します。

ログファイルは、最新7日分を保存しています。日付を変更すると、8個目のログファイルを作成する際に削除されるログファイルの順序に矛盾が生じるかもしれません。ご注意ください。



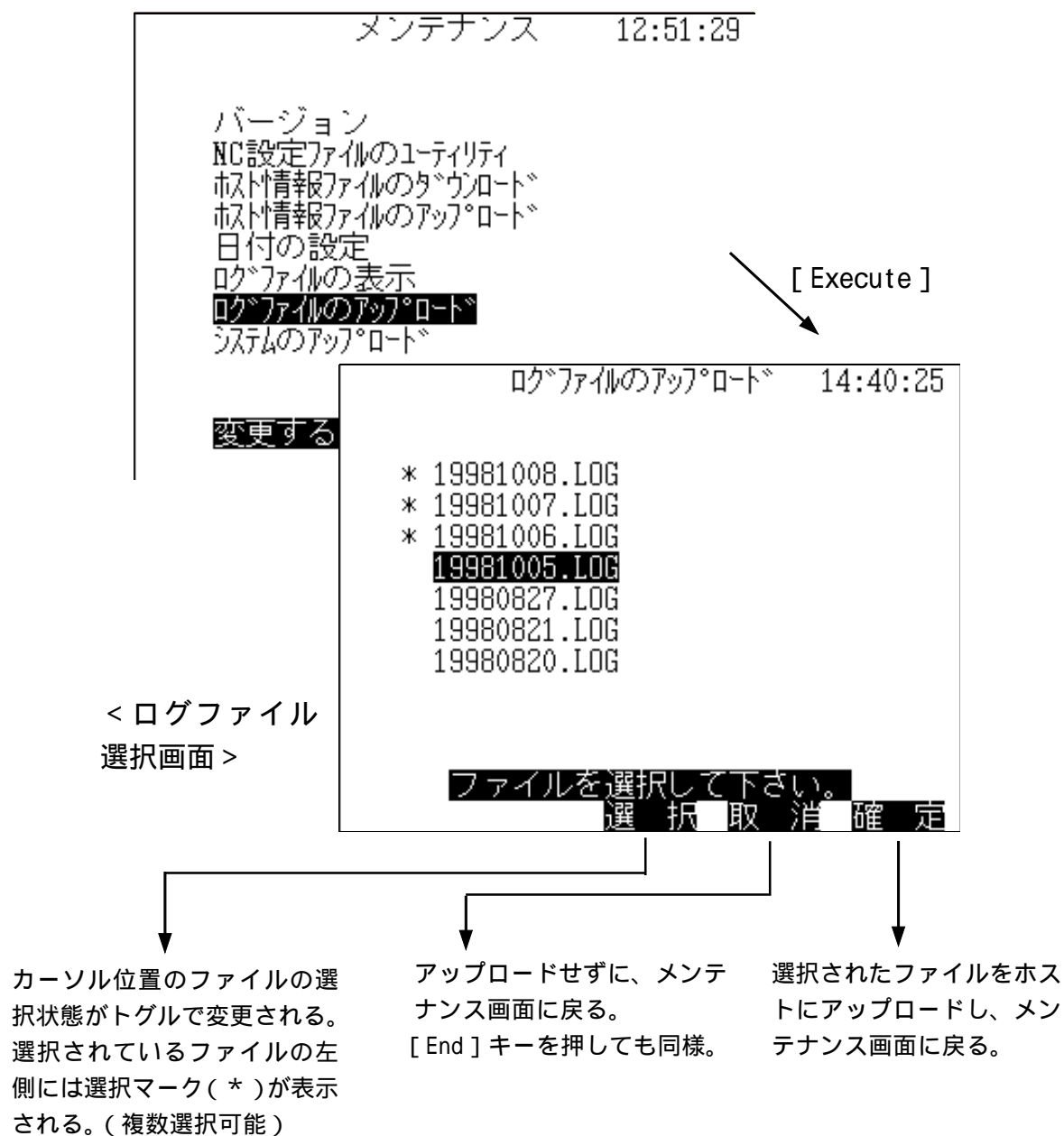
(5) ログファイルの表示

本装置側のすべてのログファイルをリスト表示し、選択されたログファイルの内容を表示します。



(6) ログファイルのアップロード

ホスト側の固定ディレクトリ ([ホームディレクトリ] / N1081) に、選択したログファイルをアップロードします。



アップロードされたファイルのファイル名等に関しては、P75を参照して下さい。

アップロードされたNC設定ファイルのファイル名

NC設定ファイルの中で、本装置側の「既存の設定値」は、ホスト側でのファイル名がXNCPARA.PRMとなります。

逆にXNCPARA.PRMファイルをホストから本装置側へダウンロードすると、ファイル名の表示は「既存の設定値」になります。

その他のNC設定ファイルのファイル名は、本装置側と同じです。

長いファイル名をサポートしているNOSで動作しているホストにアップロードされたNC設定ファイルの「既存の設定値」は、ファイル名(XNCPARA.PRM)に本装置のIPアドレスを付加したファイル名でアップロードされます。(例: XNCPARA_192_168_1_101.PRM)

その他のNC設定ファイルは本装置側と同じファイル名で、アップロードされます。

DOSタイプのNOSで動作しているホストにアップロードされたNC設定ファイルは、「既存の設定値」はXNCPARA.PRMで、その他のNC設定ファイルは本装置側と同じファイル名で、アップロードされます。この種のホストの場合は、XNCPARA.PRMファイルが端末装置ごとのファイル名にはなりませんので、御注意下さい。

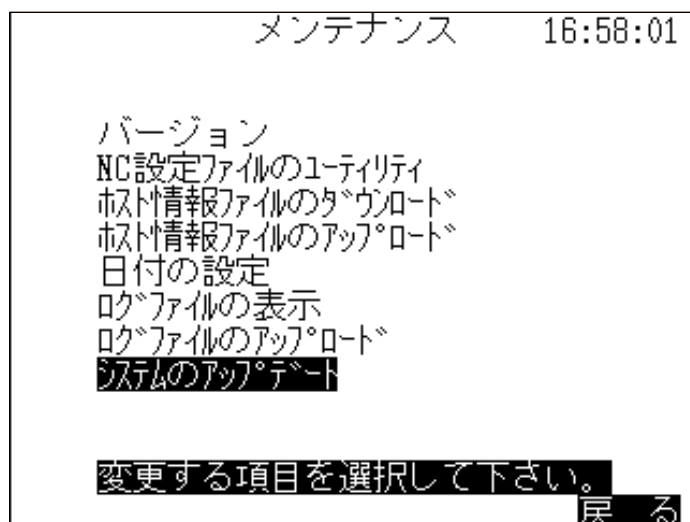
アップロードされたログファイルのファイル名

長いファイル名をサポートしているNOSで動作しているホストにアップロードされたログファイルは、ログファイル名(ログファイルを生成した日付)に本装置のIPアドレスを付加したファイル名でアップロードされます。(例: 19981008_192_168_1_101.LOG)

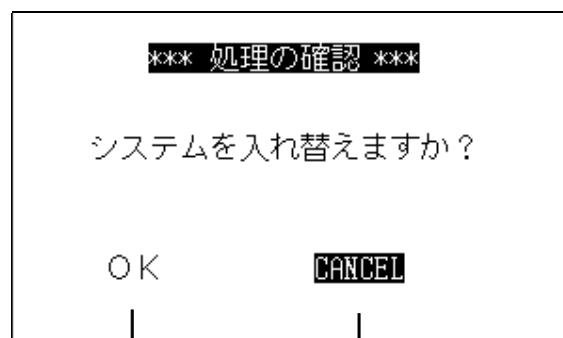
DOSタイプのNOSで動作しているホストにアップロードされたログファイルは、ログファイル名(ログファイルを生成した日付)でアップロードされます。この種のホストの場合は、端末装置ごとのファイル名にはなりませんので、御注意下さい。

(7) システムのアップデート

ホスト側の固定ディレクトリ ([ホームディレクトリ] / N1081) からシステムプログラムを含む圧縮モジュールを本装置にダウンロードし、システムを再起動します。
システムのバージョンアップなどに使用します。



↓ [Execute]

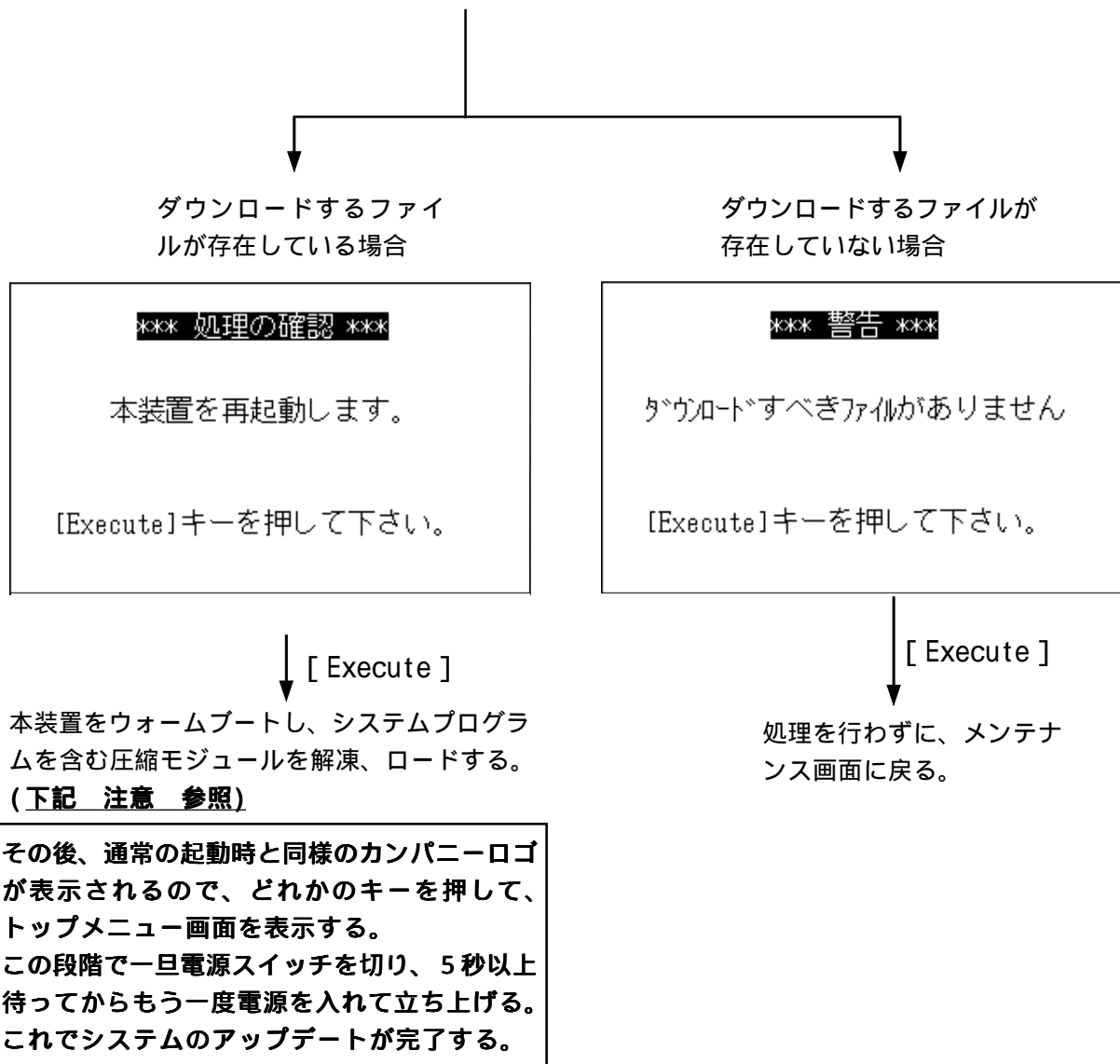


[Execute] ↓

システムプログラムを含む
圧縮モジュールのダウン
ロード処理を開始し、次
ページの画面が表示され
る。

[Execute] ↓

処理を行わずに、メンテナ
ンス画面に戻る。



注意

本装置が再起動の為のウォームブートに入った段階で画面が真っ白になり、数秒待つと文字が表示され始めます。しかし、時には画面が真っ白になったまま、30秒以上経っても文字が出てこない事が有ります。これは本装置の故障ではなく、装置の特性上止むを得ない現象です。

この状態になりましたら、一旦電源を切り5秒以上待ってからもう一度電源を入れて下さい。数秒待つと、文字が現れて動作を始めます。

"Press <F1> to resume, <F2> to Setup"と表示されて止まってしまった場合は、

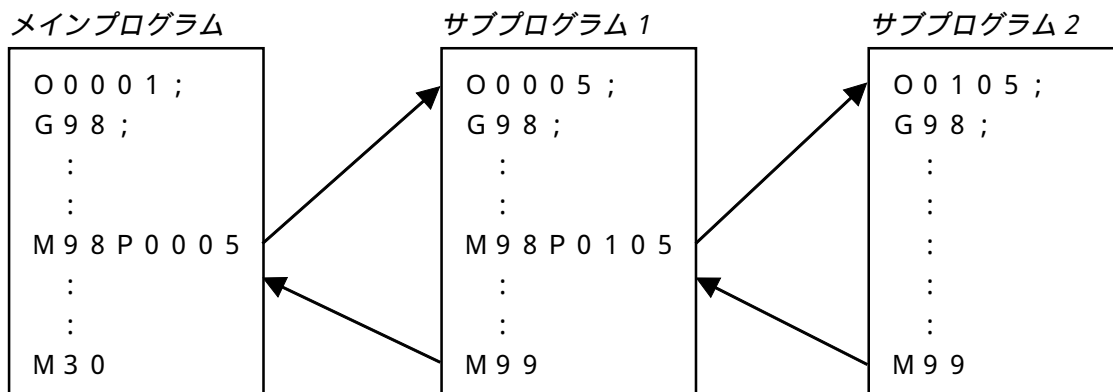
もう一度電源を切って、5秒以上待ってから電源を入れ直して下さい。

6 - 8 . サブプログラム

(1) M 9 8 P

サブプログラム機能の設定で、「M 9 8 P の展開」が「する」に設定されていると、送信データ内の " M 9 8 P " で先導される行で指示されたファイル内のデータを、係る行の記述に代わって送信します。回数を指定して、同じデータを繰り返し送信する事も可能です。

サブプログラムは、最大 8 つのネスト (下記の例では、サブプログラム 8 まで) が可能です。



M 9 8 P で呼び出されるファイルは、実行中のファイルと同じディレクトリに存在する必要があります。M 9 8 P の記述内では、パスの指定が出来ません。

< 記述方法 >

- M98Paaaa** O aaaa ファイル内のデータを一回送信する。
aaaa は最大 4 桁の数字で、先行する 0 (ゼロ) を省略できる。
- M98PaaaaLnnnn** O aaaa ファイル内のデータを nnnn 回送信する。
aaaa も nnnn も最大 4 桁の数字で、先行する 0 (ゼロ) を省略できる。
- M98Pnnnnaaaa** O aaaa ファイル内のデータを nnnn 回送信する。
aaaa は必ず 4 桁の数字。 nnnn は最大 4 桁の数字で、先行する 0 (ゼロ) を省略できる。

< 例 >

- M98P5** O 0005 ファイル内のデータを一回送信する。
- M98P105** O 0105 ファイル内のデータを一回送信する。
- M98P70005** O 0005 ファイル内のデータを 7 回送信する。
(又は、M98P5L7)
- M98P1230105** O 0105 ファイル内のデータを 1 2 3 回送信する。
(又は、M98P105L123)

- 注 1 . 呼び出されるファイル名の先頭文字は、アルファベットの大きい文字の " O " (オー) であって、以下 4 桁の数字で構成されなければならない。
- 注 2 . 呼び出されたサブプログラムは、呼び出したプログラムへ、M 9 9 コードで戻る事が出来る。
- 注 3 . サブプログラム内の送信したくない文字列は、サブプログラム機能の設定の「カット文字列」に設定する。
- 注 4 . サブプログラム機能の設定で、「M 9 8 P の確認」が「する」に設定されており且つ「M 9 8 P の展開」が「する」に設定されていると、DNC 開始後、データの送信を始める前に、予め M 9 8 P の記述方法が正しいか、呼び出されるサブプログラムのファイルが存在するかを、自動的に確認する。
- 注 5 . グループファイルの中にサブプログラムを記述する事が出来るが、サブプログラムで呼び出されるファイルにグループファイルを指定できない。

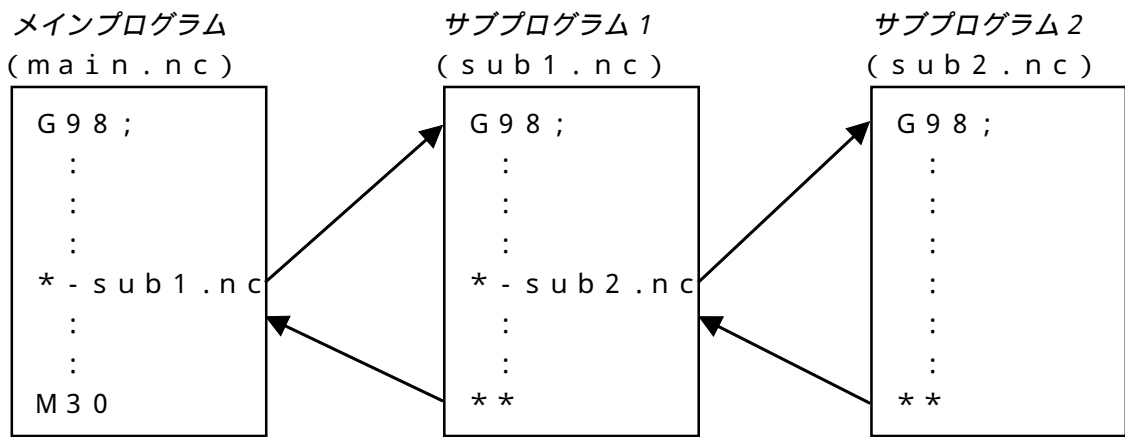
(2) 任意コール/リターンコード

任意のコールコードを設定してサブプログラムを展開する事が出来ます。

デフォルトでは、任意のコールコードを " * - " に、任意のリターンコードを " * * " に設定してあります。サブプログラム機能の設定で、「任意コードの展開」が「する」に設定されていると、送信データ内の " * - " で先導される行で指示されたファイル内のデータを、係る行の記述に代わって送信します。

M 9 8 P の様に、回数を指定して同じデータを繰り返し送信する事は、出来ません。

サブプログラムは、最大 8 つのネスト (下記の例では、サブプログラム 8 まで) が可能です。



呼び出されるファイルは、実行中のファイルと同じディレクトリに存在する必要があります。

* - の記述内では、パスの指定が出来ません。

注 1 . コールコードとリターンコードを、同一のコードに設定してはならない。

注 2 . 呼び出されるファイルのファイル名は、同じディレクトリに存在するファイルならば、任意のファイル名が可能。

注 3 . 呼び出されたサブプログラムは、呼び出したプログラムへ、リターンコードで戻る事が出来る。ファイルエンドでもリターンするので、リターンコードは必ずしも必要ではない。

注 4 . サブプログラム内の送信したくない文字列は、サブプログラム機能の設定の「カット文字列」に設定する。

注 5 . サブプログラム機能の設定で、「任意コードの確認」が「する」に設定されており、且つ「任意コードの展開」が「する」に設定されていると、DNC 開始後、データの送信を始める前に、予め任意コールコードの記述方法が正しいか、呼び出されるサブプログラムのファイルが存在するかを、自動的に確認する。

注 6 . グループファイルの中にサブプログラムを記述する事が出来るが、サブプログラムで呼び出されるファイルにグループファイルを指定できない。

6 - 9 . 文字入力画面

各設定項目で文字入力が必要な場合に、文字入力画面が表示されます。

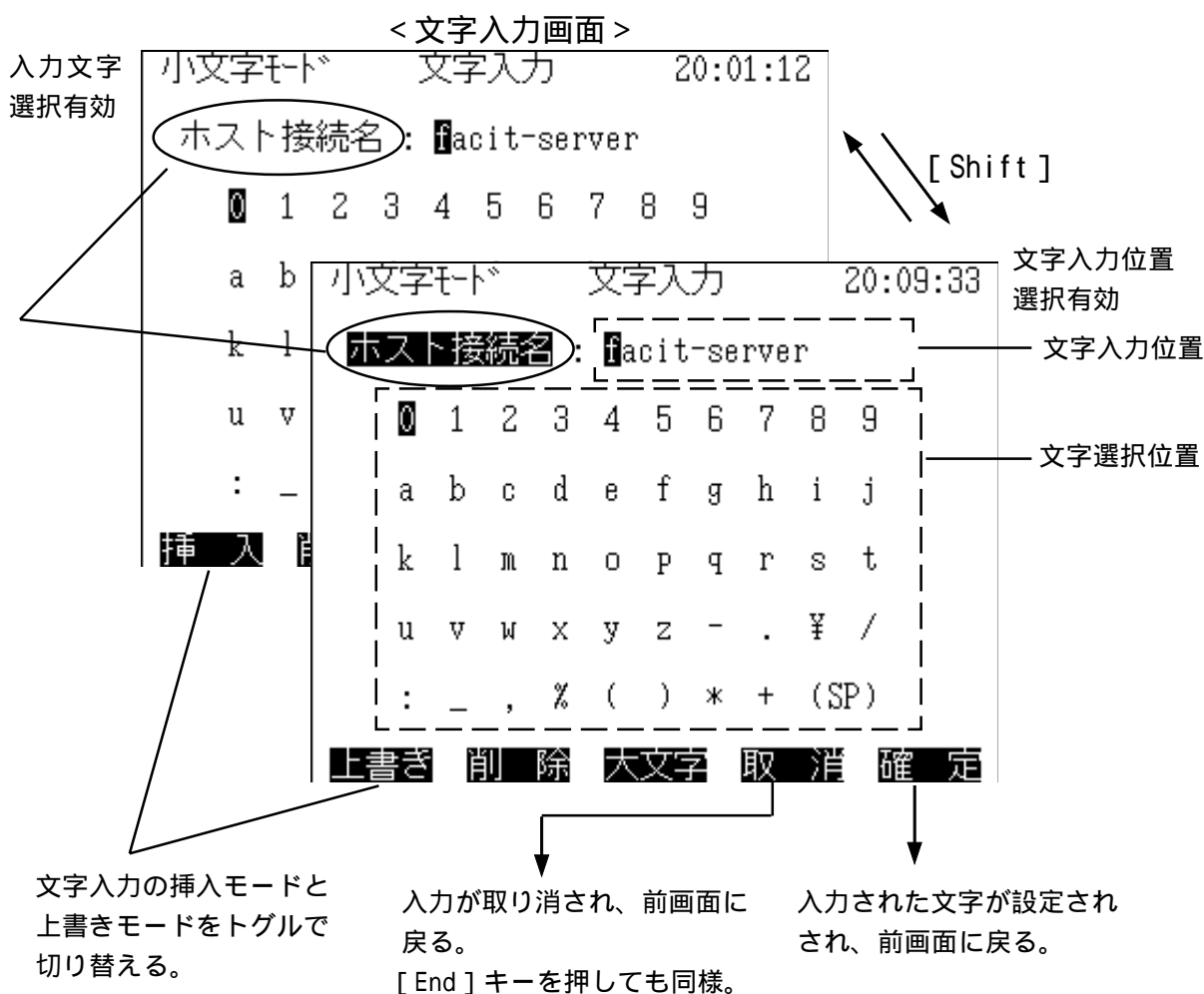
カーソルは、文字入力位置と入力文字選択の2カ所にあります。

入力項目が反転表示されている場合は、文字入力位置が有効になります。

[Shift] キーを押すと有効場所がトグルで変更されます。

有効な位置のカーソルを、矢印キーにて移動します。

入力可能文字部分は、下線部分です。



文字入力位置を矢印キーにて移動し、入力したい文字の上にカーソルを移動します。

次に、文字選択位置を矢印キーにて移動し、入力したい文字の上にカーソルを移動します。

そして、[Execute] キーを押すと、文字選択位置の文字が文字入力位置に入力されます。

(1) 挿入

文字入力位置に1文字が挿入され、その位置にあった文字は1文字後へ移動します。

(2) 上書き

文字入力位置の文字に、入力した文字が上書きされます。

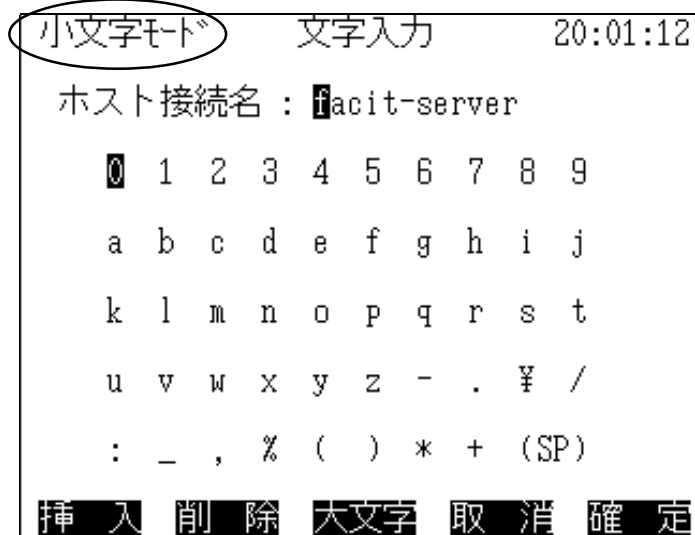
(3) 削除

文字入力位置の文字が削除されます。

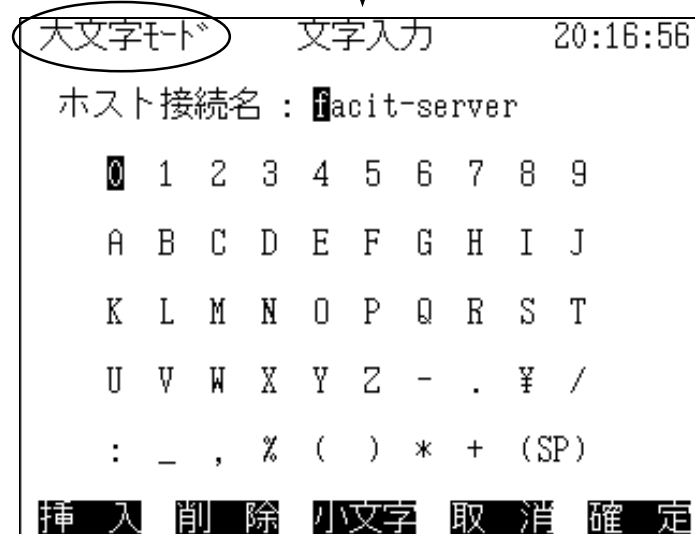
(4) 小文字/大文字

トグルにて入力文字を大文字にするか小文字にするかを選択します。

<小文字モードの場合>



<大文字モードの場合>

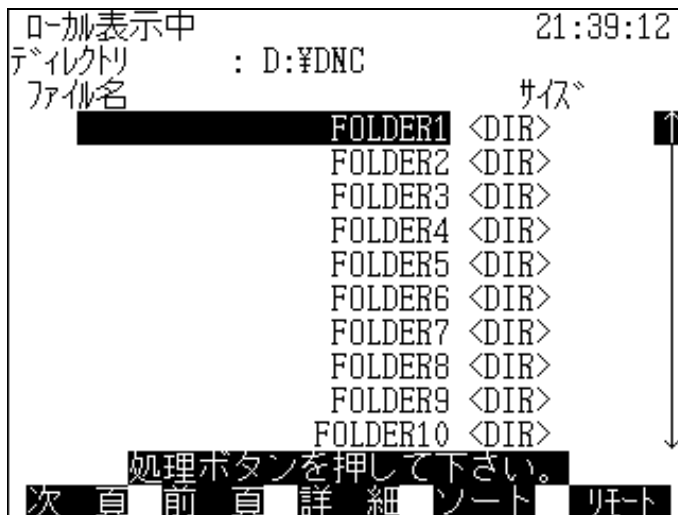


6 - 10 . 受信

トップメニュー画面で[Shift]キーを押して、[F1]キーに **受信** が表示される画面へ移行します。

受信 が表示されない時は、NC通信方法設定でプロコルBが設定されていません。**6 - 2 (1)** **NC通信方法設定**でプロコルBを選択し、必要なパラメータを正しく設定して下さい。

< トップメニュー画面 >



[Shift]

NC通信方法設定で、**プロコルB**が設定されている場合。



-- 又は --

NC通信方法設定で、**プロコルA**が設定されている場合。



(2) バスケットの選択

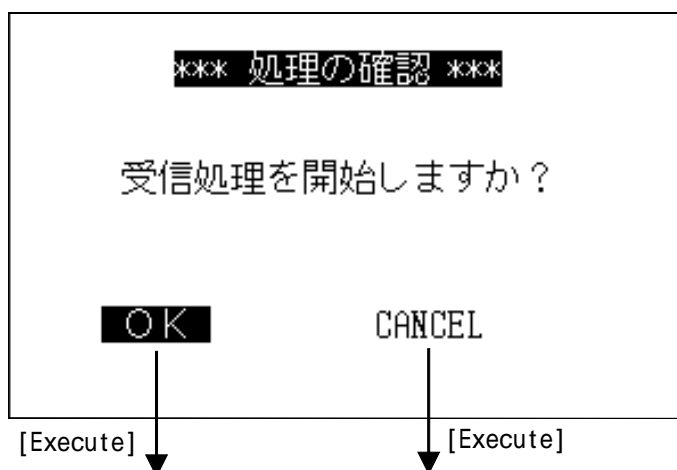
受信したデータのファイルを格納するディレクトリに、BASKET1またはBASKET2の何れかを選択します。これらのディレクトリは、システムのデフォルトディレクトリですから名前を変更したりすることは出来ません。また任意のディレクトリを作って、受信データのファイルの格納ディレクトリとする事も出来ません。

<バスケット選択画面>



「オートファイルネーム」に設定がある時は、ファイル名入力方法選択画面に戻る。
「オートファイルネーム」に設定がない場合は、受信ファイル名入力画面に戻る。

カーソルがある側のバスケットが受信したデータのファイルを格納するディレクトリ。



(3) 受信中
受信中画面に移行。

「オートファイルネーム」に設定がある時は、ファイル名入力方法選択画面に戻る。
「オートファイルネーム」に設定がない場合は、受信ファイル名入力画面に戻る。

(3) 受信中

< 受信中画面 >

受信中		14:18:50
受信バスケット名	:	D:¥DNC¥BASKET1
受信ファイル名	:	オートファイル
開始時刻	:	1999/01/11 14:18:44
終了時刻	:	
受信データサイズ	:	0 byte
残ディスク容量	:	1166560 Kbyte
中 断		

オートファイルネームの場合はファイル名が確定するまで、受信ファイル名は「オートファイル」と表示される。ファイル名は、確定し次第表示される。

データの受信は、「NC 通信方法設定・データ変換方法の設定」(P 2 2 参照)の送信コードと同じコードを受信できます。また、「受信時の設定」(P 2 4 参照)にスタートファイルマーク、エンドファイルマーク、ファイルマークの保存、オートファイルネーム、デフォルト拡張子などを、正しく設定して下さい。

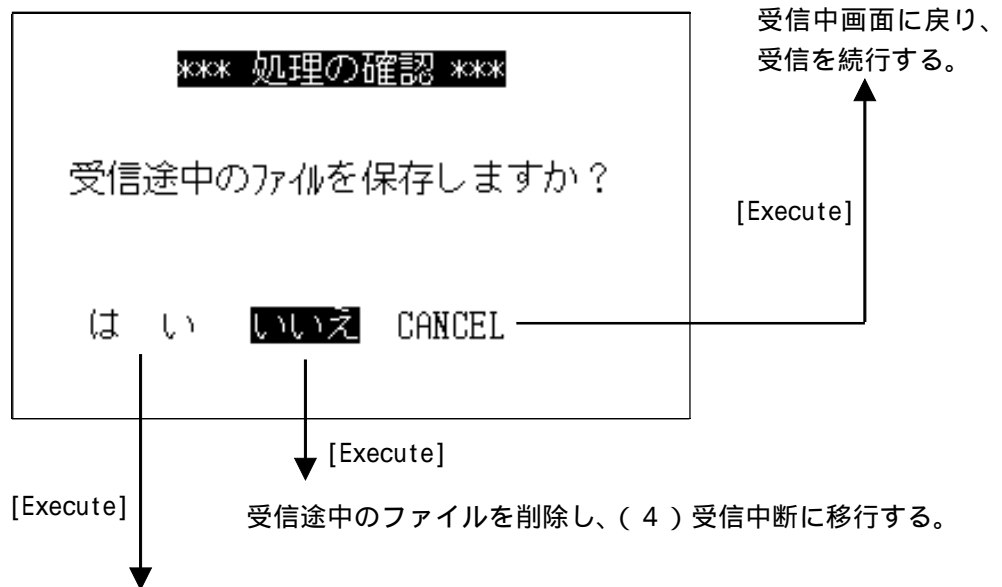
*** 処理の確認 ***	
受信処理を中止しますか？	
OK	CANCEL

[Execute]

[Execute]

受信中画面に戻り、受信を続行する。

OK を選択して [Execute] キーを押すと、次ページの「受信途中のファイルを保存しますか？」画面に移行する。



受信途中のファイルを受信ファイル名に表示されているファイル名で、指定されているバスケットに保存する。オートファイルネームの場合で未だファイル名が確定していない時は、年月日をファイル名とし連番を拡張子とする仮のファイル名で、指定されているバスケットに保存し、(4) 受信中断に移行する。

(4) 受信中断

データの受信を中断すると、受信中断画面に移行します。

< 受信中断画面 >

処理中断		16:59:14
受信バスケット名	:	d:¥DNC¥BASKET1
受信ファイル名	:	test-1
開始時刻	:	1999/06/24 16:58:51
終了時刻	:	1999/06/24 16:59:04
受信データサイズ	:	6144 byte
残りディスク容量	:	964064 Kbyte
		戻る

↓
トップメニュー画面に戻る

(5) 受信完了

データの受信を完了すると、受信完了画面に移行します。

ただし、受信エンドファイルマークが設定されていなかったり、トランスペアレントコードで受信した時は、データの受信が実際には終了していても、受信完了画面には移行しません。

この場合には、85ページの「中断」処理を実行し、受信途中のファイルを保存する操作で終了する必要があります。

オートファイルネームの機能を使っている場合で、受信したデータ中にオートファイルネームを実行するに足るデータが無かった時は、受信終了あるいは中断処理と同時に、当日の年月日をファイル名に、連番を拡張子にした (YYYYMMDD.NNN) 仮のファイル名で保存されます。

< 受信完了画面 >

データ受信終了		16:55:00
受信バスケット名	:	d:¥DNC¥BASKET1
受信ファイル名	:	test-1
開始時刻	:	1999/06/24 16:53:58
終了時刻	:	1999/06/24 16:54:10
受信データサイズ	:	15835 byte
残りディスク容量	:	964096 Kbyte
		戻る

↓
トップメニュー画面に戻る